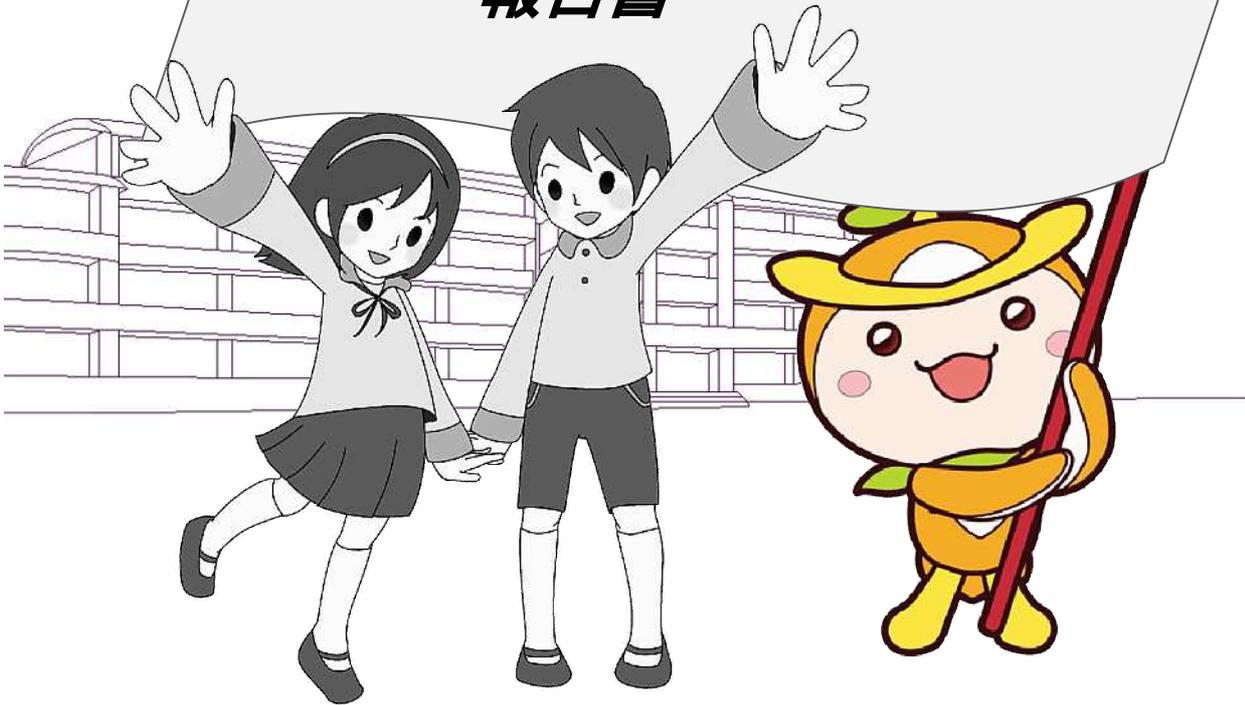


**令和7年度
特色ある学校づくり支援事業
報告書**



**令和8年3月
所沢市教育委員会**

目次

まえがき 1

小学校

所沢小学校	2
南小学校	3
北秋津小学校	4
荒幡小学校	5
北小学校	6
清進小学校	7
明峰小学校	8
伸栄小学校	9
美原小学校	10
並木小学校	11
中央小学校	12
松井小学校	13
若松小学校	14
安松小学校	15
和田小学校	16
牛沼小学校	17
柳瀬小学校	18
東所沢小学校	19
富岡小学校	20
西富小学校	21
中富小学校	22
小手指小学校	23
上新井小学校	24
北野小学校	25
北中小学校	26
山口小学校	27
泉小学校	28
椿峰小学校	29
三ヶ島小学校	30
若狭小学校	31
林小学校	32
宮前小学校	33

中学校

所沢中学校	34
向陽中学校	35
美原中学校	36
中央中学校	37
南陵中学校	38
東中学校	39
安松中学校	40
柳瀬中学校	41
富岡中学校	42
小手指中学校	43
北野中学校	44
山口中学校	45
上山口中学校	46
三ヶ島中学校	47
狭山ヶ丘中学校	48

まえがき

所沢市では、心豊かにたくましく、創造的に生きる幼児、児童、生徒の育成を目指し、平成13年度より「特色ある学校・園づくり支援事業」をスタートさせ、それぞれの特色ある学校づくりを支援してまいりました。

各学校、特色ある学校づくりの宣言文を掲げ、地域の人材や環境を生かした創意工夫のある教育課程の編成・実施など、児童・生徒が生き生きとした生活を送ることができるよう教育活動を展開しております。

この報告書は、各学校の1年間の活動をまとめたものです。

各学校におかれましては、自ら点検や評価を行い、その結果を検証するとともに課題を把握した上で、教育課程や指導方法の改善に努められ、特色ある学校づくりを一層推進されることを願います。

あわせて、この報告書をとおして、市内47校の特色ある学校づくりの概要や成果を広く市民の皆様に周知してまいります。

今後も、市教育委員会では、予算や施設設備、人的配置など、可能な限り、学校の自主性や自律性が生かせるように配慮し、特色ある学校づくりを一層、支援してまいります。

令和8年3月

所沢市教育委員会

家庭・地域・教職員が一丸となって、温かい心を自ら育み、 より賢く、より逞しくあろうとする児童を育成します

1 特色ある学校づくり概要

本年度は「継承と創造」をキーワードに「子供も 教職員も 皆が温かい心でよりよく在ろうとする学校」を目指す学校像とし、以下5点を重点、努力点として「特色ある学校づくり」を進めた。

- (ア) 子供一人一人の非認知能力を高める
- (イ) 子供たちの思考力・表現力を高める
- (ウ) 子供たちの体力の向上を図る
- (エ) 保護者・地域・関係機関との連携を深める
- (オ) 風通しがよい職場環境をつくり、教職員の心身の健康増進を図る

2 具体的な活動の紹介

上記5点のうち(ア)と(イ)の取組の一部の紹介

(ア) 子供一人一人の非認知能力を高める

本年度より校内研究において、非認知能力の育成に焦点を充てた授業実践について研究を進めている。研究は3年計画とし、1年目の今年度は研究の基礎を固めることを目的に、非認知能力について職員間での共通理解 児童の実態把握 目指す非認知能力の3点を中心に研究した。研究を進める中で、東京科学大学名誉教授の赤堀侃司先生に4回ご来校いただき、専門的な視点から非認知能力についてご指導いただいたことで研究を深めることができた。

(イ) 子供たちの思考力・表現力を高める

図画工作科における造形遊びでは、思考力や表現力を視点の一つにして授業を行った。例えば、紙コップや色を塗った割りばしなどを大量に用意し、子供たちがそれを使って思い思いに並べたり、重ねたりする活動をとおして、自分のイメージをもちながらどのように活動す

るかを考えていたり、作ったものを見せ合い、気づいたことを共有し、自分の見方や感じ方を広げながら表現したりした。子供たちが楽しみながら思考したり表現したりする姿が見られている。



「赤堀先生による講義」



「紙コップを使った造形遊び」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「特色ある学校づくり」をとおして、教職員の専門性を磨いたり、教材・教具を充実させたりすることができ、より一層充実した教育活動を進めることができた。

「たくさんの紙コップや割りばしを使って、いろいろ作って楽しかった。(子供の声)」

ともに学び、自分をみがき、大きな夢を育む学校

あたたかで、心の通う学年、学級経営

わかった できた おもしろいを実感できる授業の創造

レジリエンスを高める指導の工夫

環境教育・環境整備の充実

学校・家庭・地域が一体となって取り組む 地域に根差した教育の推進

1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標「心豊かな子 明るい子 考える子 たくましい子」のもと、家庭や地域、学校応援団に見守られながら日々の教育活動を進めている。

特色ある学校づくりでは、「あたたかさが届く学校」を目指し、一人一人の子供を大切にされた多様な教育活動の推進、児童が安心して過ごせる居場所づくり、学ぶ喜びを味わわせ主体的に学ぶ授業の創造、児童が安全で心豊かに学ぶための教育環境の整備、学校美化、家庭・地域との連携を深め地域とともに歩む学校の推進に取り組んだ。



「委員会児童による花の植え替え活動」

2 具体的な活動の紹介

「あたたかさが届く学校」実現のために、教職員の共通理解のもと、児童の教育環境の充実、保護者への対応、学校美化等をしていけるように以下の取組を進めた。

(1) 指導者を招聘し全学年で研究授業を実施 (2) 学校農園の整備による生活科や総合的な学習の時間の体験活動の充実 (3) 6年生の社会科及び総合的な学習の時間に講師を招聘し、税の学習や職業学習を実施 (4) 家庭科、理科、クラブに講師を招聘しての専門性の高い活動の実施 (5) 1年生の生活科に地域の方を招き、むかし遊び体験の実施 (6) 委員会児童による花の植え替え活動 (7) 校舎内外の補修や花壇等の環境整備等。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

埼玉県学力・学習状況調査の「学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか」の項目では、「認めてくれた」「どちらかといえば認めてくれた」の合計が97.3%だった。

学校関係者評価「学校は、あたたかい学校、学年、学級づくりに努めていると思いますか」の項目では「そう思う」「ややそう思う」の合計が98%だった。

地域の方との交流では、「来年度もぜひ子供たちと関わりたい」という声があった。

子供を大切にする学校 北秋津小

～地域・家庭・学校が協働して創る「笑顔と挨拶があふれ、美しい歌声が響く学校」～

1 特色ある学校づくり概要

「子供を大切にする学校～地域・家庭・学校が協働して創る『笑顔と挨拶があふれ、美しい歌声が響く学校』～」を目指す学校像として、本市教育の基本理念「3つの宝を大きく育てる」を具現化し、子供たち、保護者・地域、教職員が誇れる魅力ある学校づくりを推進してきた。「ふるさと所沢を愛する心」については、人とのつながりを大切にして、地域の教育資源を活用し、地域からも学ぶ子供たちを育成した。「未来を拓く知恵」については、地域人材を活用した体験活動を行い、自ら考える態度や豊かな感性を育成するとともに、国語（書くこと）の学校研究により、自分の思いや考えを表現できる児童を育成してきた。「心身のたくましさ」については、体力向上の取組、基本的な生活習慣づくり、体験活動の場等の環境を整備しつつ、あきらめない心や運動好きな児童を育成してきた。



「令和7年3月に閉園した幼稚園よりアップライトピアノを譲り受け、ストリートピアノ「夢のハーモニー広場」の運営を始めた」

2 具体的な活動の紹介

本校では、毎日の登下校をはじめ、大勢の地域の方に見守りや教育活動へのご協力をいただいている。「学校農園」や「全校俳句作り」「低学年での外国語活動」「福祉学習」では、地域の方を外部講師にお招きしご指導いただいた。昨年度に引き続き実施した「銀杏プロジェクト」では、児童が拾い集めた銀杏を地域の方に加工していただき、無人販売所で販売した。校内には、地域の方が生けてくださったお花、掲示物、絵画や写真も飾られており、地域と一体となった教育環境が実現できている。この他にも、北秋津町内体育祭や北秋津町内文化祭では、学校と地域とのつながりを深めることができた。また、PTAの保護者の方には、植木の剪定、トイレ清掃や運動会・音楽会の運営などでご協力をいただいた。

学習環境整備としては、「夢のハーモニー広場」と名付けたストリートピアノの音楽委員による運営や、昇降口の新聞コーナー、花壇、学校農園などの整備・維持を行い充実を図った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「子供を大切にする学校～地域・家庭・学校が協働して創る『笑顔と挨拶があふれ、美しい歌声が響く学校』～」は、子供・保護者・地域にも浸透してきている。子供たちには、「ちょうせんしょう。ときどきしっばいもしょう。そこからまなんでせいちょうしょう。」と伝えている。『『幸せな子供時代』を子供たちへ』を合言葉に、地域総ぐるみで「子供たちが大切にされている」実感もてるように日々の教育活動を充実させてきた。

< 地域の方の声 >

- ・ 子供たちの姿や日頃の学習の成果が伝わる運動会・音楽会等を今後も地域の私たちに披露して下さい。素晴らしい姿にパワーをいただいています。

< 保護者の声 >

- ・ 校外で行う学習が多い点がいいと思います。これからはいろいろな経験をお友達とできたら嬉しいです。
- ・ 特別公開授業や学校公開などの機会に私たち保護者も子供達の様子を拝見でき、とても嬉しいです。いつも子供達の成長を感じられる良い機会になっています。

所沢市立荒幡小学校

子供たちの「笑顔がいっぱい」「挨拶がいっぱい」あふれる学校づくりを目指し、教職員・保護者・地域が三位一体となり「調和」のとれた学校教育を推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校は隣接する荒幡富士やいきものふれあいの里センターなどがあり、豊かな自然環境に恵まれ、郷土史を学んだり、自然体験や生き物観察も行ったりすることができる。地域住民の方々や保護者は、地域への愛着や学校への思いが強く、学校に大変好意的で、環境整備だけでなく、農業体験や昔遊び等の教育活動にも積極的に協力して下さる。これら地域の教育資源や地域人材を活用し、学習を進めてきた。他者を意識し進んで関わるための「あいさつ」の取組に力を入れたり、体験的な学習や縦割り活動を多く取り入れたりなど、他者や集団から尊重される経験を積むような活動を実施してきた。また、ユニバーサルデザインの視点に立った学級経営や授業展開、個別の指導や支援の工夫に関する研修を進めることを通して、子供が嬉々として登校し、充実した活動をし、満足して下校する学校を創り上げている。



「いきものふれあいの里センターでの自然観察活動」

2 具体的な活動の紹介

- 保護者や地域の方々、学校応援団等と連携し、家庭科のミシンや生活科の町探検、昔遊び等の学習活動や運動会等の学校行事での協力を依頼し、活動を通して本校の教育活動の方向性を周知し、支援の充実を図った。
- 「地域の学校」として子供たちを育成するために、ARARE（あらはたりサイクル）による牛乳パックや新聞紙、アルミ缶回収、図書ボランティアによる図書室整備等を行いながら、地域に根ざした共同体としての学校づくりを行うことができた。また、その様子についてはホームページや教職員が児童に周知するなどし、地域の方々への感謝の念を育成し、登下校の際の見守りの方々へあいさつや声掛けにつながるようにした。
- 地域や各機関のゲストティーチャーによる学習サポートを推進した。「荒幡富士」「いきものふれあいの里センター」での学習では、地域の方々と一緒に活動したり、「ボッチャ体験」「書きぞめ指導」「ネットの危険性」などはゲストティーチャーから本格的な指導を受けることができたり、子供たちの学習意欲の喚起や学習支援に大いに役立っていた。



「地域ボランティアとのディスコン体験」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

豊かな自然を生かした体験活動や、地域の人との交流活動を通して、子供たちの地域の自然環境等への関心や授業等で学習したことを生活に生かそうとする意欲が着実に高まっている。

地域の方々からは「子供たちからのお礼や挨拶の言葉がうれしい」、保護者からは「帰宅した子供が、今日の体験が楽しかったと話していた」、子供からは「地域の方に色々教えてもらって楽しかった」「もう一度やってみたい」など肯定的な声を多く聞くことができている。

所沢市立北小学校

「人のために 子供も 教職員も 皆、笑顔で
尊敬し合い(愛) 協力し合い(愛) 学び合う(愛)
安全・安心な学校」
子供も教職員も家庭も地域も「北小が 大好き」と思える北小学校を目指します。

1 特色ある学校づくり概要

「はじめに子供ありき」を原点として、『常に「子供にとってどうか」という観点に立ち返り、とるべき手立てを判断していく。』という目標を掲げ、目標の具現化に向けて、「生きる力」の育成 相互理解(教員・児童・保護者・地域)に基づく開かれた学校づくり の2点に絞って、教職員だけでなく保護者や地域等とも連携を図りながら組織的かつ継続的な学校づくりを推進した。



「夏休み PTA ラジオ体操・水遊び」

2 具体的な活動の紹介

「生きる力」の育成...落ち着いて張りのある生活

児童の「生きる力」を育成するために、確かな学力・豊かな心・健康や体力をバランスよく身に付けさせるよう、各教科での授業づくりや行事等を含む学校生活の充実に努めた。また、生徒指導・教育相談・特別支援教育の機能を活かした学級・学年経営を図ることで、居甲斐を感じられ、落ち着いて張りのある生活ができるように配慮した。生徒指導委員会等についても定期的実施することで学級・学年の様子を全体で共有し、教育相談・ケース会議を生徒指導とは異なる視点で実施して、児童を多角的に見ることで「確かな学力・豊かな心・健康や体力をバランスよく身に付けさせる」ことにつなげることができた。

相互理解(教員・児童・保護者・地域)に基づく開かれた学校づくり

学校(教職員)と家庭(保護者)や地域(学校運営協議会委員・民生児童委員・サポートスタッフ等)が相互に連携し、児童の健全育成に努めるとともに、学校からの情報発信や情報収集に努め、地域の誇りとなる学校づくりを行った。積極的に地域の人材を活用することを目指して様々な方向から掘り起こしの作業をした。コロナ禍により活動休止していたサポートスタッフの取組については、一昨年度より再スタートをさせて、今年度は実働人数がかなり増え、活動も軌道に乗ってきている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

昨年度より国語科を中心として「想像力を巡らせ、自ら考え表現できる児童の育成」を研究主題として校内研修に取り組み、所沢市教育委員会の指導主事を指導者としてお招きして、授業研究会を行った。また、PTAを含むさまざまな活動が充実してきており、好評をいただいている。

「笑顔・元気・あいさつがあふれる学校」を目指します

保護者・地域と連携して地域ぐるみで子どもを育てます

1 特色ある学校づくり概要

- (1) Chromebook や ICT 機器を活用して、昨年度に引き続き、体育の研究を行う。今年度の研究テーマ「友と・共に伸びる児童の育成～主体的に課題解決を図ろうとする体育授業～」をもとに、解決策を共有したり、思考したりする時間を設け、主体的に解決を図ろうとする態度を身に付ける児童の育成を目指す。
- (2) 低学年における読書習慣の定着を図るため、読み聞かせを継続的に実施する。あわせて、図書室のユニバーサルデザイン化や蔵書の適切な維持管理を行い、児童の知的好奇心を刺激する読書教育を推進する。
- (3) 「学校応援団」や「ほうかごところ」との連携を強化し、学校外のリソースを積極的に活用した多様なプログラムを提供することで、児童の社会性や自己肯定感を醸成する。
- (4) 幼保小中高の各段階における円滑な接続を重視し、系統的なキャリア教育を推進する。発達段階に応じた学びの連続性を確保し、社会的・職業的自立に向けた基盤を育成する。
- (5) ビオトープを「生きた教材」として活用し、持続可能な社会の担い手を育てる環境教育を展開する。



「所沢西高等学校の生徒との交流」

2 具体的な活動の紹介

- (1) 校内研究 体育「友と・共に伸びる児童の育成～主体的に課題解決を図ろうとする体育授業～」に関して ICT 機器を用いた即時的なフィードバックは、児童が抱く「感覚的な課題」と「実際の動き」の乖離を埋める上で有効的であった。特に、映像を基にしたグループ協議では、視覚的な根拠に基づく具体的なアドバイスが交わされ、児童が自発的に技能向上へ向かう「主体的な学び」の姿が顕著に現れた。これにより、本主題が掲げる「友と共に伸びる」姿を、運動技能と対人スキルの両面から具現化することができた。
- (2) 読書活動の充実に関して
学校司書・後援会と連携し、図書の購入を前期（7月）・後期（12月）の2回に分けて行い、新書を充実させた。また、学校応援団に図書ボランティアの方に協力してもらい、「読み聞かせ・本の修繕」活動を定期的に行い、図書関連の活動を充実させた。
- (3) 学校応援団やほうかごところとの連携に関して
学校応援団・ほうかごところの組織的な強みを活かし、リーダー層を中心とした指導・支援体制を整えることで、児童の意欲的な活動を支えることができた。
- (4) 幼保小中高との連携に関して
所沢西高校の交流会を11月に、幼稚園・保育園との交流、中学校の職場体験を1月に実施した。高校生は1年生から3年生まで36名の生徒が参加し、授業のサポートを経験してもらった。地域の幼稚園・保育園との交流は、入学に向け良い経験となった。
- (5) 環境教育（ビオトープ）の充実と推進に関して
ビオトープを活用した自然体験活動を教育課程に位置づけ、児童の豊かな感性と探究的な学びの育成を図った。具体的には、第4学年において「おおたかの森トラスト」代表・足立氏による出前授業を実施した。専門家との対話を通して児童の知的好奇心を刺激し、持続可能な社会の担い手としての意識を育む有意義な実践となった。

3 成果及び児童・保護者・地域の声等

本年度は学校応援団とのスムーズな連携に努め、組織的な協力関係をより実効性の高いものへと進化させた。ビオトープでの活動を象徴として、保護者の参画意識に好ましい変容が見られ、参加規模が年々拡大していることは良い点を考えられる。学校評価アンケート等においても、活動の有用性や児童の成長に対する肯定的な意見が多数寄せられた。

学校・保護者・地域で子供たちを育てる学校づくり

～すべての教育活動は子供たちのために～

保護者や地域に愛され、信頼され、誇れる学校を創造する
児童の発達段階や実態に合った特色ある教育活動を展開する
働き方改革の推進 機能的、効果的な学校運営を推進する

1 特色ある学校づくり概要

本校の学校教育目標、「本気」「勇氣」「元気」の具現化のため、学校・保護者・地域で子供たちを育てる学校づくりに取り組んでいる。今年度は、主に、教育環境の整備充実と校内研修【誰もが「わかった」「できた」を実感できる授業作り】に取り組んだ。

2 具体的な活動の紹介

学校ファーム「ダッシュファーム」等の教育環境の整備充実

本校の中庭には、農園が広がっており、栽培活動が盛んである。2～6年生・特別支援学級（かがやき学級）が農園を活用し、白菜、大根、にんじん、小松菜、サツマイモ等を育てている。特別支援学級では、販売学習を行うことができ、勤労する意欲や豊かな心の育成につながった。大根や里芋は、学校給食の食材として活用し、給食校内放送で紹介を行った。

校内研修による授業改善

校内研修では、【「わかった」「できた」を実感できる授業づくり】を目指して研究に取り組んだ。ところん学力向上プロジェクト事業基礎研究委託による研究授業発表に取り組んだ。また、所澤3校合同研修会では、コミュニティースクールと連携しての非認知能力の育成について研修をおこなった。そして、3校合同生徒指導研修会で指導法の研究も行った。今後は、さらに、ICTを効果的に活用し、「授業規律」「自己決定の場」「児童理解」を視点に、授業改善を図っていく。

体力の向上

運動する喜びが味わえる体育科授業実践は、昨年度から継続し、子供たちの体力向上に努めている。年間を通して、朝マラソン、運動チャレンジを実施し、業間マラソン、長縄跳びを実施している。

体育の授業では、毎時間の振り返り活動を位置づけて行い、自分の運動量の確保に努めた。



「ダッシュファーム野菜の学習」



「ICTを効果的に活用した学習（家庭科）」



「朝マラソン」

3 成果及び子供・保護者・地域の声

学校ファームの農園活動では、計画から始まり、種まき、栽培、収穫の活動を体験し、また、学習ボランティアとして、地域の方をお迎えして野菜を植え、収穫することができた。保護者には、授業参観・懇談会、個人面談を通して、子供たちの活動を見ていただくことができた。運動会、音楽発表会等の学校行事等を通し、たくさんの保護者に学習の成果等を参観していただいた。

所沢市立伸栄小学校

本校は「子供が伸びて、地域が栄える学校」をめざし、
家庭・地域との協育で子供が育つ学校づくりを推進します

1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標「やさしく かしく つよい子」
「家庭・地域との協育で子供が育つ伸栄小」
目指す学校像のキーワードを「しんらい えがお
いきいき ESD 」で示し、

子供たちが健やかに育つ学校

家庭（保護者）や地域から信頼される学校

教職員が学び合う学校

清潔で豊かな教育環境のある学校

とし、目指す子供像は「えがおでいきいき学校へ通う子
供たち」自己有用感、思いやりの心を持つ子、自分も相
手も大切にしている。



「花壇ボランティアさんが、正門前の花壇を
中心に、手入れをしてくれている。また学校
ファームの整備にも積極的に協力してくれ
ている」

2 具体的な活動の紹介

今年度は PTA 改革の 3 年目として、伸栄小学校の様々な学校行事や日々の活動場面において、PTA や学校応援団のサポートを得て、教育活動を充実させてきた。学校応援団には 100 名以上の登録があり、花壇ボランティア、学校ファーム、リサイクル活動、図書整備、家庭科のミシンや調理、町探検や社会科見学の引率等に学校応援団が活動してきた。その他、PTA 本部委員も加わり、学年・学校行事の受付や保護者誘導、会場設営、作品掲示のお手伝い等、様々な場面で保護者や地域の方々と一緒に、三者が連携して学校づくりを行ってきた。

また、伸栄小学校のランドデザインの中には「人や環境にやさしい ESD (持続発展可能な学校づくり) を推進する学校」と明記し、多くの場面で ESD の視点を大切にした教育活動を行ってきた。

こうした学校・家庭・地域の連携と、ESD を中心とした様々な体験活動の充実で、潤いのある豊かな学校づくりを推進した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度はさらに学校行事等の公開の機会を増やし、その都度 PTA や学校応援団、地域の方々の理解・協力を得ながら、開かれた学校づくりを推進してきた。授業参観や運動会、音楽会などの全校の学校行事をはじめ、社会科見学や遠足等の学年行事や校外行事等も全て滞りなく実施できた。学校応援団に参加した保護者の方からは、「子供たちと一緒に活動できてとても楽しかったです。ありがとうございます。また参加します。」などと多くの感謝や励ましの言葉をいただいた。子供たちや保護者の方々の笑顔があふれ、大きな成果となった。

生き生きと学び高め合う美しい学校づくり

自ら学び 心豊かでたくましい子の育成 -

1 特色ある学校づくり概要

本校は全教職員の経営参画のもと学校教育目標「自ら学び心豊かでたくましい子の育成 考える子 思いやりのある子 元気な子」の具現化を目指し、特色ある学校づくりの指針である「生き生きと学び高め合う美しい学校づくり」を推進している。そのためには、教育活動の中心である授業の充実を図っていくことが重要であると考え。本校では、学習指導要領が目指す知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むために、常に授業の改善を図り、「わかる喜び」「できた喜び」を味わわせることのできる質の高い授業実践に取り組んでいる。



「能楽ワークショップ」

2 具体的な活動の紹介

児童一人一人の主体的な授業参加を促し、各教科・領域の学習内容とともにコミュニケーション能力・問題解決能力・情報活用能力など未来を拓く学びの推進に努めてきた。教育課程の実施：「子どもたちが主体的に学び、わかる楽しさを実感できる授業づくり～問題解決型学習を生かした算数指導～」をテーマとした校内研修の取組では、指導者を招聘し全教員が研究授業を行い、教師の資質の向上を図るとともに、児童の学力向上に取り組んできた。また、少人数指導や習熟度別指導、高学年では交換授業を導入して、個に応じた指導の充実を図った。体験活動：生活科のまち探検（1・2年）や能楽ワークショップ（6年）社会福祉協議会の方による出前授業（5年）など、各学年で普通の授業では体験できない活動を実施することができた。地域との連携：図書ボランティアによる定期的な読み聞かせ（月1回）や見守りボランティアによる登下校の見守り、小中合同あいさつ運動など、地域の教育力を生かした取組を実施している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

令和7年度の「教育に関するアンケート」での「子供たちが明るく元気に学校生活を送れるように取り組んでいる」や「わかりやすく授業を教えている」について9割以上の保護者が肯定的に捉え、保護者の、学校生活や授業に対する関心が高いことが窺えた。今後も「生き生きと学び高め合う美しい学校づくり」の具現化を図り、学校・家庭・地域が一体となった「美原小学校の学び」を推進していく。

「夢を育む学校を目指す」

「3つのだいじ」を学ぶ -

ゆめのだいじ...未来の自分を信じて学ぶ児童を育てる

こころのだいじ...色々な取組を通して心の水瓶を一杯にする児童を育てる

いのちのだいじ...人や生き物の命を大切にする児童を育てる

1 特色ある学校づくり概要

本校では夢を育む学校を目指し、教育活動を「3つのだいじ」を柱として価値付けて児童に働きかけている。

右の写真は職員室前廊下に3色に色分けして掲示している活動写真であり、4月から時系列で振り返ることができる。

夢・心・命の3つについて校長が朝会講話でアプローチしているほか、各学年が実態に応じた取組を通じて目指す学校像を具体化しようと努めている。



「夢・心・命ごとに色分けした活動写真」

2 具体的な活動の紹介

「夢のだいじ」では、児童の夢作文を校長が添削したり、夢面談を実施したり、直接働きかけたりしているほか、一人一人の夢を書き出した中から「声優」という職業で講師を招き「夢と豊かな心を育む講演会」を実施した。講演会では児童のよく知るアニメキャラクターの声を実演していただいたり、絵本等の読み聞かせをしていただいたりした。また、プログラミングによるロボットコンテストで世界大会に出場した卒業生を招いての講演会を実施したほか、デフリンピック金メダリストによる講演会を予定している。



「声優の講師を招いての講演会」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・これからも声優の仕事を頑張ってください。私も全力で毎日を頑張ります。(「全力で毎日を生きる」という講師のメッセージを受けて)
- ・元々絵本は好きでしたが、より絵本が好きになりました。こんな素敵な時間は二度とないと思います。ありがとうございました。(読み聞かせを受けて)

昨日より今日、今日より明日へ

～豊かな心で明るく未来を切り拓くチーム中央小～

1 特色ある学校づくり概要

本校では、目指す学校像を「昨日より今日、今日より明日へ～豊かな心で明るく未来を切り拓くチーム中央小～」とし、今年度から地域学校教育目標「地域とともに歩む子」を掲げ、日々の教育活動に励んでいる。特色ある学校づくりの構想としては、「校風の醸成」「学力・体力の向上」「豊かな心の育成」「地域と共に歩む学校」を柱として教育活動全般にわたって、教職員と児童が一丸となり、保護者・地域との絆づくりをさらに推進している。今年度も、地域や学校応援団の方々には、児童の学習支援、安全、環境整備など、様々な支援をいただいている。地域の教育力を積極的に取り入れながら、学校、家庭、地域が、相互理解と相互支援を深め、地域と共に歩む学校づくりを進めている。



「学校応援団の方々には、稲刈りについて説明していただいている様子」

2 具体的な活動の紹介

特に成果が得られた活動は、地域の人材を活用した体験活動である。毎週水曜日の朝には、学校応援団・読み聞かせ班のご協力のもと、全学級において、読み聞かせをしていただいている。また、校地内にある学校ファームでは、年間を通して農作物の栽培・収穫体験を行っている。学校応援団・学校ファームの方々のご指導のもと、全学年の児童が土に触れ、畝づくり、植え付け、水やり、草むしり、収穫を体験することができた。3年生は、総合的な学習の時間として、所沢市の名産である「里芋」を題材にした単元を設定しており、子供たちは、一人一株ずつ、植え付けを行った。自分の育てる株に名前を付け、毎日水やりをしたり、雑草取りをしたりと主体的に栽培活動にかかわることができた。その他にも、生活科、理科、総合的な学習の時間の授業として、1年生はサツマイモ、2年生はキュウリ、ナス、ピーマン、4年生はヘチマ、5年生はお米、6年生はジャガイモの栽培・収穫体験を実施した。どの学習活動も、学校応援団の皆様のご協力により、充実した内容となった。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

稲作体験を行った5年生児童からは、「一生できないかもしれない体験をすることができてよかった」「脱穀の時、力が上手く入らなくて困っていた時に、学校応援団の方が一緒に足踏みを踏んでくれてうれしかった」「ブルーシートを敷いておいてくれたりして、しっかり準備してくれてありがたかった」等、児童の体験活動が充実していたことが伺えた。協力いただいた地域の方からは、「子供たちが進んで水やりや草むしりを行っていた。作物の成長を楽しみにして世話をする子供たちの姿を見て、うれしくなった。子供たちから元気をももらった。」という感想をいただいている。本校の「特色ある学校づくり」の重点である体験活動を通して、学校、家庭、地域の連携は、より強固なものとなってきている。

ふるさとにします みんなの学校 松井

— 笑顔があふれ 花が咲き 歌声ひびく 松井小 —

汗を流して、たくさん学んで、たくさん遊んだところが、子供にとって「ふるさと」になります。学校運営協議会を中心にPTA、学校後援会、学校開放運営委員会と連携して、子供の「ふるさと」になるよう、“地域とともにある学校づくり”を進めています。

1 特色ある学校づくり概要

- ①「やさしさあふれる笑顔の松井」をテーマに学校教育目標の1つである「思いやりのある子」の育成を目指し、教育活動を推進する。
- ② 学校運営協議会制度を活かし、保護者・地域・学校がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支えていく。
- ③ 校務分掌組織を機能させ、全教職員の創造性を生かした教育活動を展開するとともに、GIGAスクール構想における子供たちの豊かな創造性を育む学びの場の実現へ向け、日々の授業の中から「主体的・対話的で深い学び」の充実と、自己肯定感を高める支援・指導の充実を図る。
- ④特別支援教育・教育相談を充実させ、配慮を要する児童へのきめ細かな指導・支援を行い、社会的自立に向けた基礎を養う。



「代表委員会の取組 “松井のやさしい花を咲かせよう” プロジェクト」

2 具体的な活動の紹介

- ①年3回の学校運営協議会を通じ、各方面からの意見に対して「Yes. Let's! (～をしていきましょう)」の観点から、さらに発展的に地域とともにある学校づくりを行った。会議で決まった実践について効果検証するための仕組みを整えることができた。
- ②学校行事をはじめ、学年活動や通学班、たてわり班、クラブや委員会活動などで、友達や仲間と力を合わせる場面や、授業中よく考えさせたり、工夫させたりする場面を意図的に設けた。さらに、難しいことや苦手なことなどに学年の発達段階に合わせて挑戦する場面を設け、これからの社会を生き抜く力の育成を図った。
- ③所沢市の授業基本形である①学びたくなる「めあて」②課題解決に向けた「見通し」③考えが広まり深まる「話し合い」④学んだことを確認する「まとめ」⑤自分の考えを捉えなおす「振り返り」に合わせ、児童の「できるようになりたい・わかるようになりたい」思いを高めた。
- ④学校運営協議会の通年課題である「挨拶・言葉遣い」について、学校、家庭、地域で取り組むことを確認し、各関係団体に呼びかけ、活動を広げることができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

後援会をはじめ、学校応援団等による様々な教育支援を受け、「地域の子供は地域で育てる」地域立の学校として、子供たちがこの松井地区で生活し、学ぶことを誇りに感じる日が来ることを信じている。今後も社会に開かれた教育課程の実施に加え、子供も大人も学び合う教育体制を整え「全ては子供たちのために」教育活動を推進していく。

- 「子供たちから元気な挨拶が聞こえてきて、私もたくさんほめるようにしています」(パトロール隊の方より)
- 「昨年度と比べ挨拶をする子が増えてきています。」(保護者より)
- 「ホールに掲示している優しい花を咲かせようにみんなが優しくしてくれたことがたくさん貼ってあり、見ているとこっちも優しい気持ちになります。」(6年女子より)

地域とともに歩む学校づくり

「豊かな心」と「確かな学力」を身につけた児童の育成を目指して -

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」(「豊かな心」と「確かな学力」を身につけた児童の育成)を学校教育目標として掲げている。

また、学校づくり宣言は「地域とともに歩む学校づくり」であり、「地域の学校」として、地域や保護者から信頼される開かれた学校づくりと学校教育目標の具現化に向け、「ともに学び、実践する学校」を合言葉に、以下の教育活動に取り組んでいる。

「生きる力」を育む教育の推進

学校・地域の組織や地域の教育資源や人的資源を生かした教育活動の推進

安全・安心な学校・地域づくりの推進



「重松流お囃子体験」



「田植え体験」

2 具体的な活動の紹介

- ・学年ごとに、植物や作物の種類を決め、学校の花壇や畑を活用して植物や作物の植栽を行った。作物を育てる過程で、水やり、除草、収穫などを通じて、生命を大切にすることを学んだ。
- ・6月と11月に地域連絡協議会を開催するなど、自治会長や、地域の見守り隊の方々と共通理解を図り、日頃から児童の登下校時の安全等について、連携、協力し合あうことができた。
- ・5年生の総合的な学習の時間に、稲の栽培を行ったり、2年生の生活科の時間にトウモロコシ狩りの体験を行ったりした。いずれも地域の方を講師としてお招きし実際に指導をしていただいた。
- ・4年生の総合的な学習の時間に、重松流祭囃子や、フラダンス、フラワーアレンジメントなど、様々な「名人」をお呼びして、体験的な学習を行った。
- ・愛校会等から提供していただいた花の苗を、地域の方や児童が花壇へ植栽した。親子除草や地域の方もお手伝いいただく環境整備活動を広げていった。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・田植えや作物・花苗の植栽、世話などの実体験を通して、深い学びにつながる授業を行うことができた。児童は、作物や植物に愛着を持ち、自然や食物を大切にする意識が芽生えた。
- ・地域の方との交流などを通じて、地域の生活や文化を支えることの大切さを実感することができた。保護者の方からも、見守り隊など地域に支えられ、ありがたいという声がある。

地域とともに歩み、自信を持って誇れる『ふるさと』

～児童が主役となる学校づくり～

1 特色ある学校づくり概要

地域とともに歩み、自信を持って誇れる『ふるさと』
安松小学校は「児童が主役となる学校づくり」をテーマとして、「地域の人々に学ぶ」「地域の自然に学ぶ」「地域の文化に学ぶ」を特色ある学校づくりの基本理念とし児童、保護者、地域の実態に合わせた体験活動を通して「生きる力」の育成を図った。



「5年生 ボッチャ体験教室」

2 具体的な活動の紹介

(1) 学校運営協議会を通して

今年度も地域の方や関係職員の皆様にご協力いただき、ボッチャ体験、ゴールボール体験、アマチュア無線体験、モールス信号体験、ベースボールチャレンジ、租税教室などの学習に取り組んだ。また生命委員会の児童を中心に、ミヤコタナゴを始めとする魚の世話・管理をした。魚のことを知ってもらうために説明を掲示するなど工夫が見られた。魚を見に来る児童も増え、興味関心が高まった。



「安松水族館の様子」

(2) 「特別活動」の学校研究を通して

本校は特別活動の研究3年目である。今年度は学級活動(2)(3)についても皆で研究に取り組んだ。今年度は音楽会ではなく、「音楽フェスティバル」に変更したが、児童たちは自分たちだけでなく、観客にも楽しんでもらおうと各学年アイデアを出し合い工夫した結果、大いに盛り上がり全校児童の一体感が生まれた。主体的に取り組む特別活動の教育実践が充実してきた。

(3) 自然体験活動の実施

本校では毎年、おおたかの森トラスト代表、足立圭子さんに月に1回ご来校・ご指導いただき、児童だけでなく、保護者・学校応援団のみなさんと協働して学習林を守る活動を行っている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

地域の行事については、年々参加児童が増えている。特にみこし祭りについては児童・教員合わせて110名の参加があった。昨年度から再開した祭りだが、たくさんの方が参加してくれた。来年度以降も継続していけたら嬉しい。子供中心の地域行事を今後も企画運営していきたい。(自治会長様)

明日もきたくなる めくもりのある和田小

～子供が幸せになれる学校づくり～

1 特色ある学校づくり概要

- ・教職員がやりがいを持ち、子供が安心して生活できる環境の整備
- ・思考を深める授業の充実 学力向上
- ・豊かな心と人間関係の育成 規律ある態度
- ・たくましい身体の育成 体力向上
- ・考える力や豊かな心の基盤となる体験学習の推進
- ・保護者・地域との共育体制の強化



2 具体的な活動の紹介

体験学習の推進 共育体制の強化

「総合的な学習の時間と関連した体験活動の充実」

- ・3年生のお茶摘み体験：お茶園を訪問しお茶摘み体験を行った。
お茶を育てる工夫や努力を知ることができた。お茶を飲むことを敬遠していた児童もお茶摘み体験後はおいしく試飲して、お茶への意識が変わった。
- ・4年生福祉教育：社会福祉協議会の協力のもと、視覚障害の方や聴覚障害のある方など障害のある方々の話を聞くことや一緒に体験活動をすることで、共生社会の一員として自分ができることの意識を醸成することができた。
- ・5年生：総合的な学習で～知ってこ！SDGS～と題して所沢市役所マチごとエコタウン推進課や保健給食課、いきものふれあいの里センターのご協力のもと、地球環境から身近な環境について知ったり、郷土の味「手打ちうどん」にもチャレンジするなど自分たちの所沢についても知ったりすることができた。
- ・他にも社会、理科と関連した体験活動や保護者による家庭科の裁縫のボランティア活動などを行った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度から「学校運営協議会」が始まった。地域とともにあるコミュニティースクール和田小学校として新たなスタートをした。学校運営協議会では、地域の課題とも向きあうことができた。地域の懸案事項であった「和田音頭」を継承する人材育成が課題となった。そこで、本校の3年生の児童が地域学習として引き継ぐことになりました。地域の方々をゲストティーチャーとしてお迎えし一緒に練習をすることができた。夏祭りでは地域の皆さまにお披露目をするすることができた。皆様に喜んでいただき、地域の学校として和田小学校がまた一つ歴史を刻むことができた。

笑顔いっぱい、夢いっぱい、わくわく牛沼小学校！

— 学校、家庭、地域の連携を深め、元気で明るい学校を目指します！ —

1 特色ある学校づくり概要

本校は「花と緑と豊かな心」を校訓と掲げ、学校・保護者・地域の信頼関係を培い、三者の連携を図りながら子供たちの豊かな感性と生きる力を育む取り組みを実践している。

- ・特別支援教育の視点を生かした授業づくりを実施し、個に応じた指導の推進（学習・生徒指導）
- ・児童の非認知能力を伸ばす取り組み（心の教育の充実）
- ・ガイダンスとカウンセリングの機能の充実（教育相談）
- ・地域に根差した保護者・地域に信頼される開かれた学校（情報発信、地域人材の活用）
- ・スペシャル・サポートルームの環境整備と活用（不登校支援）



「スペシャル・サポートルームの整備」



「スペシャル・サポートルームの整備」

2 具体的な活動の紹介

○スペシャル・サポートルームの設定と環境整備

主に不登校、不登校傾向、教室に入れない児童を中心に、登校への足掛かりとなるべく専用の教室を整備している。スペシャル・サポートルームの設置における本校独自の特色は次の5つである。

- ①教室の真ん中に仕切り壁を設置して2つに分けた。
- ②1つ目の部屋は個別学習ルームとし、大きな机を並べ、プラダンボードを設置して一人一人のブースのような状態にした。これにより児童が一人で集中して学習に取り組むことができた。
- ③中央に木製テーブルを置き、校内教育支援サポーターが指導をしたり、見守ったりしている。
- ④2つ目の部屋はグループ活動ルームとし、中央に木製テーブルを置いて複数人でかるた等の遊びをしたり、給食を食べたりする場所とした。
- ⑤畳を設置した。寝転んでリラックスしたり、簡単な遊びをしたりする場としている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

登校がゼロだった児童がスペシャル・サポートルームには少し登校するようになった。また、スペシャル・サポートルームに一日中いるわけではなく、図工だけは教室に行くなど少しずつ足掛かりとなって教室に入れる回数が増えてきている。

地域に根ざし、やさしさと笑顔、意欲にあふれる学校

1 特色ある学校づくり概要

本校は、所沢市の東端に位置し広い農村地帯と区画整理された住宅街を学区内にもつ。保護者や地域住民には本校の卒業生も多く、学校の教育活動に進んで協力をしてくださる地域性がある。今年度も校長の経営方針のもと「地域に根ざし、やさしさと笑顔、意欲にあふれる学校」の実現をめざし、地域学習をとおり、地域と共に歩み、地域に愛される教育活動を実践した。



「第3回柳瀬夏祭り」

2 具体的な活動の紹介

体験的な学習の充実

2年生では、サツマイモ栽培発祥の地・オリンピック記念碑・南永井の八幡神社等の地域めぐり、3年生では、地域のお茶園やスーパーマーケットの見学、5年生では、国の重要文化財に指定されている黄林閣（柳瀬荘）の見学等を行った。

安全安心、潤いのある教育環境の整備

季節に応じた花の苗等を購入し、委員会の児童やボランティアと共に花いっぱいの花壇にすることができた。今年度も、PTAのボランティアの方が、花壇等の草取りや土壌改良をしてくださった。普段なかなか手を入れにくい場所の作業をしてくださり、とてもありがたかった。きれいな花壇を維持することができた。

大災害の時に、学区の広い本校で児童をどのように安全に避難させるか、どのように児童を安全に保護者へ引き渡すかを考えながら、引き渡し訓練を実施した。

親子参加型の活動について

親子参加型の活動を実施した。担任とPTAの学年委員の協力のもと計画を練ったり指導者を招聘したりして、『学ぶ楽しさ』のある活動を実践した。1年生「食育」3年生「うどんづくり」5年生「おなかの健康」6年生「ミニ運動会」の活動が展開された。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

体験活動や地域学習を充実させることにより、地域全体で、心豊かな子供たちを育成しようとする意識の継続が図れた。

保護者や地域の方々からは、「楽しく学校へ通っている」「授業を工夫し、意欲的に学習している」等の肯定的な評価をいただいている。

地域に根ざした生き生きとした学校づくり

1 特色ある学校づくり概要

本校は「すすんで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」を学校教育目標に掲げ、「みんなが楽しく学ぶ心豊かな学校 ～昨日より今日、今日より明日へ～」という学校経営方針基本理念のもと教育活動に取り組んでいる。そして、「元気に登校して 楽しく学び 笑顔で下校する東所沢小学校」を目指す学校像として、以下具体的に取り組んできた。



「校長による道徳の授業」

2 具体的な活動の紹介

今年度より、「心の教育～一人一人が自分も相手も大切にする学校を目指して～」をスタートさせた。具体策として「全教育活動を通じて行う道徳教育」「児童の心を豊かにする校内環境の整備」「体験的な学びの充実」「生命の尊さを実感する学びの実現」「あいさつ運動」「黙々清掃」を挙げ、指導にあたった。

1年目の研究は、『人権感覚を高め、互いに認め合う環境を作る』ことを目指し、立教大学副総長 大石幸二先生、元市内小学校長である所沢市教育委員会 社会教育課 社会教育指導員 黒田嘉信先生にご指導をいただき、教職員の指導力向上を図った。

また、学校運営協議会での「本物から生きた学びをしてほしい」との声を受け、気象予報士 平井信行様をお招きし、5・6年生を対象とした「楽しく学ぶ『天気のお話』」を実施した。



「楽しく学ぶ『天気のお話』の様子

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・先生が意図的に子供たちを「さん」づけで呼ばれていることにより、互いに尊敬や思いやりの気持ちが育まれていると感じます。こうした温かい学級づくりが今後も続くことを願っています。
- ・先生方のご協力と、ご理解により、なんとか学校へ行けており、感謝しています。様々な子供がいることを前提に、集団行動が出来ない、教師の指示に従わないといった表面的なものではなく、その子の困り感、抱えている困難さにも思いを馳せ、対話をしてくださりありがとうございます。

地域に根ざした体験活動と読書活動を重視し

心豊かな児童の育成を目指します

1 特色ある学校づくり概要

本校は、所沢市の中で歴史のある学校である。古くからある学校のため、地域とのつながりが深く、何世代にも渡って本校の卒業生という保護者も多く、教育活動に協力的である。地域の方々の協力により、お茶工場の見学や様々な農作物の植え付け、収穫体験ができることが本校の特色である。

本校の学校教育目標は、「心豊かに行動する子の育成」である。昨年度から引き続き、トコロん学力向上プロジェクトの特別指定研究校として読解力の向上に取り組み、その中でも読書活動に力を入れている。蔵書率を高めるために、児童が希望した本を購入したり、新刊の予約制度を取り入れたりすることで、読書への意欲付けを図っている。読書を通して活字に触れ、心豊かに育成できるよう職員が協力しながら、取り組んでいる。



「新刊コーナー」

2 具体的な活動の紹介

<読書活動>

本の貸出を電子化したことにより、児童が本を借りる頻度が高くなった。さらに、読書貯金という取り組みをし、冊数やページ数で表紙の色を変え、読書に親しめる環境を整えている。また、児童が希望した新刊を中心に書籍を購入している。児童が次に読みたい本には予約制度を新たに作り、次に読めるまでの時間が分かるように取り組んでいる。



「バーコードで貸出している様子」

<地域との交流>

学校ファームでは、地域の農業の方に農場長としてファームの運営に協力をいただいている。農場長に、畑を事前に耕してもらい、児童が植え付けをしたり、収穫をしたりしながら、体験活動を行っている。植え付けの際や収穫の際、どのようなことに気を付けたらよいか、農場長より助言をもらいながら、農作業を行っている。収穫した作物は自宅に持ち帰り、自分で育てた楽しさを味わうことができ、家庭とも共有している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

読書活動では、図書室に進んで本を借り、机の中に本を入れ、本を読む習慣を身に付けることができた。児童の学校評価のアンケート「本を進んで読んでいますか」では70%近くの児童が肯定的に回答している。体験活動では、児童は喜んで収穫した野菜を持ち帰り、家庭での調理方法を考えることができている。

夢と希望を持って学び合い支え合う学校

1 特色ある学校づくり概要

目指す学校像は「夢と希望を持って学び合い支え合う学校」である。児童にとって【安心できる学校】 友達や教師とともに学び合う学校、保護者にとっては【信頼できる学校】 子供を安心して預けられる安全な学校、教職員にとっては【学び合う学校】 同僚から謙虚に学び合う学校、地域にとっては【大切な学校】 信頼と誇りを持てる大切な学校、を実現すべく、全職員が一丸となって教育活動を行っている。

2 具体的な活動の紹介

「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、「わからない」「教えて」「助けて」と援助要請できる学級風土に支えられた、互いに聴き合い、支え合い、学び合う授業の展開で、「思考力・判断力・表現力」が身に付く授業の実践に取り組んでいる。学校課題研究では研究主題を「児童の読解力を伸ばす授業展開」と設定し、指導内容を明確化し、読み方を教える授業を展開することで児童の読解力向上を目指している。

また、本年度は創立150周年の節目の年である。地域や保護者で組織された150周年実行委員会が中心となり、様々な記念行事が盛会のもと行われたことは、本校が「大切な学校」として愛されていることの象徴でもあった。学校運営協議会による寶泉寺を会場とした「冬休み寺子屋教室」の取組は、コミュニティ・スクール元年にあって、今後につながる意義のある取組となった。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

西富小学校では、温かな雰囲気のある風土の中で子供たちが伸び伸びと成長している。地域は非常に協力的で約50名のボランティアが活発に活動し、地域の有志による登下校の見守り活動が長年に渡って行われていることも本校の特長のひとつである。

そのような恵まれた環境の中で「夢と希望を持って学び合い支え合う学校」を目指すことは、保護者のみならず地域の願いでもある。2学期末に実施した「教育に関するアンケート」では、保護者から「学校の雰囲気がよい」「子供が笑顔で登校している」などの声が寄せられたことから、目指す学校像へ向けた取り組みが子供・保護者・地域から理解され、少しずつ成果をあげていると考えることができるであろう。次年度以降も本年度の成果をさらに発展させ、目指す学校像の実現に向け、取り組んでいきたい。



「授業の様子」



「授業の様子」



「冬休み寺子屋教室」

キラリ輝く笑顔あふれる元気な学校

— 子供一人一人の心の中に「ふるさと中富」をつくります —

「ふるさと」とは、子供たちの学びの出発点を象徴的に表す言葉です。
「自分には自分のよさがある。こんな大人になりたい。将来、こんな職業につきたい。」
子供が夢をいなく学校づくりを推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校の目指す学校像は、『全ての子供たちが自他を尊重し合い、互いに高め合い、「ふるさと中富」の次代の担い手を創る学校～「児童の心のエネルギー」を満たし、「明日もっと学びたい、もっと人と関わりたい、もっと汗を流したい」と思える勇気づけに満ちた誰一人取り残さない教育活動の推進～』である。

様々な活動の中にみられる、自他のよさを認め生かし合える姿をくかかわってキラリ>、能動的に学ぶ姿をくわかってキラリ>、粘り強く心身を鍛える姿をく汗を流してキラリ>として、それら一瞬の輝きく3つのキラリ>を見逃さずに、全校を挙げて特色ある学校づくりの実現を図っている。



「地域の方の協力を得て、サツマイモの苗植え、サツマイモ掘りを行いました」

2 具体的な活動の紹介

三富開拓の歴史を学んだ児童（H16 卒業）が音楽担当と作成した本校独自の「三富おろし」という曲がある。これを毎年6年生が伝承し、校内音楽会等で演奏している。年度末には、6年生から5年生へと伝承される。楽譜は存在せず、実技指導、口伝で伝えている。6年生がカウントをとったり、手本を示したり、その中には称賛の言葉や叱咤激励等もあり、かかわる様子がキラリとする瞬間である。

また、本年度から、学校のビオトープ再生をおこなっており、ヤゴ救出、ビオトープ整備、植樹、落ち葉再生を地域の方や保護者の協力を得て行い、ビオトープに住む動植物の数が増えてきた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

本校は三富新田開拓の地域にあり、屋上は三富新田の様子を見学できる場所になっている。市内だけでなく市外からも小学生が見学に来たり、地域の学習グループが見学に来たりして、三富地区、中富地区について学ぶと同時に、親しみを持っていただいている。

地域の方は大変協力的で、多くの体験活動をしたり、ボランティアでの見守り活動をしたりと子供たちのためにと力を貸していただいている。

給食に食材のご提供をいただいている農家のお力添えで、低学年児童がサツマイモの苗植えから収穫までを体験する活動をしている。自分たちが収穫した物が給食に使われ、心に残る活動になっている。

学校・家庭・地域は子供のよき理解者・支援者として 豊かな心で学び続ける児童を育てます

・主体的に学ぶ心 ・相手を思いやる心 ・たくましい心

1 特色ある学校づくり概要

学校経営の基本理念を「真の学び舎は子供が主役」とし、学校・家庭・地域が子供たちのよき理解者・支援者となることを目指して特色ある学校づくりを進めてきた。中でも子供たちの確かな学力の向上のために体験活動の充実や校内研修・研究等による教員の授業力向上に取り組んできた。また、開かれた学校づくりに向けて、PTAを核とした保護者との連携や地域の連携の小手指中学校区学校運営協議会を推進した。



「農家さんとの交流給食」

2 具体的な活動の紹介

○確かな学力と豊かな心の育成

児童の確かな学力と豊かな心の育成を目指して、本事業を活用し、体験活動の更なる充実を図った。

第1学年では、地域を探索して秋探しをしたり、「こてかつ」の方から昔遊びを教えていただいたりした。第2学年では今年度も北野天神社、小手指中学校等に協力いただき、有志の保護者の方と一緒に町たんけんを実施した。また3学期は、国語「スーホの白い馬」に登場する馬頭琴の演奏者を招き、体験を伴った学習を実施した。第3学年では地域人材を活用したそろばんの授業、マミーマート見学、昔のくらし見学を実施した。第4学年では社会福祉協議会と連携した福祉体験を実施した。第5年では韓国（安寧市）との交流授業や藍染め体験を実施した。第6学年では租税教室、平和についての授業を実施するなど学年の指導計画に沿った内容をゲストティーチャーに指導していただいた。

学校農園「緑のファーム」では、地域のボランティアの協力を得て、さつまいもや人参、大根等7種の野菜を栽培し、収穫した野菜を自校給食の食材として活用したり、また今年度は、保健給食課と連携した「とことこオーガニック（農家さんが栽培した有機野菜の給食への活用）」を通したりして、食育にも繋げることができた。

○児童・教職員の安全・安心

今年度はトイレの改修工事（北側1系統）に加え、高圧洗浄機を利用したトイレの床面清掃、校庭のグリーンダストを真砂土に変更するなど環境整備を行ってきた。

防災意識を高めるため、例年通り年4回の避難訓練に加え、保護者による引き取り訓練、防災無線による緊急地震速報訓練、Jアラート訓練を実施した。また訓練では、全校で統一した事前指導・事後指導を行うことにより、防災教育をさらに充実させることができた。

○地域連携・開かれた学校づくり

今年度も、運動会、授業参観・懇談会、音楽発表会、持久走記録会、学校公開等を通して、保護者や地域に学校を開くことができた。また、学校を開催場所とする地域行事に子供たちが参加することにより地域と家庭の関係もより一層深まったといえる。その基盤となる学校運営協議会の運営においても小手指中学校区間で足並みを揃えて実施することができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「見る」、「話す」、「聞く」、「やってみる」といった子供たちの体験は、知識をより確かなものにさせた。特に体験活動により、子供たちの「心が動く瞬間」をより多く作ることができた。保護者や地域の方からも、「子供が元気に登校して、楽しそうに帰ってくる姿を見れて何よりです。」、「子供たちは給食の時間をいつも楽しみにしているようです。」、「子供たちが例年よりも多くお祭りに参加しています。」という声をいただくなど「特色ある学校づくり」を推進することができた実感することができた。

今後も、家庭・地域とともに特色をさらに生かした活動となるよう教育計画を立てていきたい。

「丘の学び舎」やさしく、かしこく、元気な子の育成

瞳かがやく 笑顔あふれる 楽しい学校

全教職員の創意を生かし、組織的・協働的に魅力ある教育活動を展開する

- 1 確かな学力の定着「知」
- 2 豊かな心の育成「徳」
- 3 健やかな体の育成「体」
- 4 生徒指導・教育相談・特別支援教育の推進・充実
- 5 安全・安心な学校
- 6 学校・家庭・地域の連携
- 7 信頼される教職員「教職員事故は0にできます！」

1 特色ある学校づくり概要

教職員事故を0にするために、児童の写真撮影をする際の規定の見直しを行った。見直しを行いながらも児童の取組や頑張る姿は撮影し、記録に残したり保護者に伝え続けたりしていくためにデジタルカメラを新調した。数を増やし、教職員事故防止を常に念頭に置き本来の教育活動を確実にやっていく。

本来の教育活動とは、授業の充実と子供たち同士、子供と教員、教員同士の関りを大切にした活動である。さらに、長期欠席や不登校に悩む児童や保護者が多数いる中で、客観的には評価しづらい非認知能力を見取り、育成することで、学習意欲の向上や人との関りをより深くすることができるのではないかと考え、その育成を全校で行ってきた。



栽培委員会が作成した看板。開校50周年記念の子供たち発案の取組

2 具体的な活動の紹介

子供たちが安心して登校し、学習に集中できるよう修繕や環境整備等に努めてきた。危険箇所を修繕したり、花の苗を購入したりして花や緑に囲まれた学校づくりを行った。子供たちの主体的な学習を大切に考え、栽培委員会では、校庭の樹木にその木の名前の由来や説明を書いた看板を取り付けた。愛校心を高めることにもつながっている。

3 成果や保護者・地域からの声

頂いた予算を広範囲に使うことができるので、とてもありがたく有効に活用させていただいている。今年度は特に、開校50周年の節目であったために、子供たちと地域の方々との関りが多く持てたり、愛校心を育んだりするのにもよい絶好の年となった。その取組にも多く予算を使わせていただいた。

「き」れいな学校「た」のしい学校「の」びゆく学校

誰からも信頼される『社会に開かれた』学校共育の推進

1 特色ある学校づくり概要

「き」れいな学校

安心・安全な学舎、自然とふれあえる環境、規則ある態度と生活

「た」のしい学校

明るく・仲よく生活、誰もが元気に活動、いきいきと学習・運動

「の」びゆく学校

豊かな心と輝く挨拶、確かな学力・体力の向上、自立・協働・貢献

具体的な方策【コミュニティスクールの強みを生かした教育活動】

- 地域の教材化と学習活動の連携
- 学習ボランティア・コミュニティスクールにおける人財活用
- 小中連携によるコミュニティスクールにおける教職員研修の充実



「ねこ隊による読み聞かせ」

2 具体的な活動の紹介

○地域の教材化と学習活動の連携

- 1年 トウモロコシの栽培と収穫、調理、実食
- 2年 サツマイモ・大根の栽培と収穫、調理、実食
- 3年 蚕の飼育 地口絵奉納
- 4年 花育
- 5年 稲育、収穫と炊飯 わら細工体験
- 5組 大根やその他野菜の栽培と収穫、収穫した物の実食・販売

○学習ボランティア・コミュニティスクールにおける人財活用

- 全校 PTA やねこの手貸し隊による 花育、除草、落ち葉掃き、体育館清掃、
- 学年 読み聞かせ ミシン学習 花育 調理実習 田んぼづくり わら細工体験 昔遊び 等

○小中連携によるコミュニティスクールにおける教職員研修の充実

- 全学級の授業公開と各校の教育活動の情報交換（6月、北野中学校）
- 夏季休業中の生徒指導教育相談合同研修（8月、北中小学校）
- 中学校区授業研究会（トコロん学力向上プロジェクト連携）（11月、北野小学校）

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

生活科での児童の感想から、「地域の方の支援のおかげで畑や野菜のことをより学ぶことができた」、「立派な野菜がとれてうれしい」という意見があった。また、保護者からも「収穫物を家庭で調理し、味わった。とてもおいしかったです。」という感想をいただいたり、学校での調理のサポートをしていただいたりした。また、地域の方からも花壇が整備されていることについて、お褒めの言葉をいただき、学校としても大きな励みになった。

子供の笑顔を大切にする学校

「授業」「学校の決まり」「自分と友達」を大切にする学校づくりを推進します

1 特色ある学校づくり概要

総合的な学習や生活科を中心に、環境を生かした学習を進め、体験から学び、環境との共生を考える中で、豊かな心を育む教育活動を展開する。

学力・体力の向上を目指し、学習環境の充実を図ると共に、職員の校内研修を充実させ、基礎基本を大切に、子供たちが学びたくなる場を形成する。学ぶ姿勢（挨拶、姿勢、話の聞き方）の繰り返しの指導に取り組む。

「できることを工夫」しながら、様々な教育資源を生かし、児童の体験や多様な教育活動の場を増やす。

北中会（PTAに代わる組織）、保護者や地域の「北中小の子供を守る会」、3校合同コミュニティスクール（北中小、北野小、北野中）との緊密な連携をとり、安全で安心な学校づくりを推進する。



「書きぞめ講師による授業風景」

2 具体的な活動の紹介

総合的な学習、生活科において、児童に多くの教育的機会を与えるために、教材（生活科：大根種、総合：じゃがいも）などを購入し、学習環境の充実をしている。

個に応じた指導の充実のために、書きぞめの指導者を招聘し、一人一人に丁寧に指導を行うなど、円滑に学習活動ができるようにしている。

運動会やブロック遠足（低、中学年）などの行事を通して、異学年交流を行い、相手を思いやる心や助け合う気持ちなど、豊かな心の育成を行った。行事に必要な教材等を購入して、できることを工夫しながら活動を進めている。

学校農園を活性化するため、環境主任が中心となり植物の栽培に取り組んでいる。肥料を購入し、肥えた土づくりに取り組んでいる。また、環境整備のための耕運機や草刈り機の燃料も購入している。

例年実施している栽培した大根を地域の方へ配り、感謝の気持ちを伝え、地域の方と信頼関係を築いている。

校内研修で「自分も相手も大事にする児童の育成」を行うため国語、外国語、体育の授業研究に取り組み「見通し」「ふりかえり」に力を入れて、職員研修を充実させた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

特色ある学校づくり支援事業のおかげで、時期や学習活動に応じて必要なものを速やかに用意することができ、充実した教育活動を進めることができた。特に、今年度も書きぞめ講師を招聘し、一人一人の字の上達につなげることができた。

また、子供や保護者、地域にとって安全で安心な学校づくりを進めることができた。登下校の見守り隊をして頂いている地域の方々からも「子供たちから元気もらっています」とのうれしい言葉も頂いている。

子供が自ら育つ学校

かしこく・やさしく・たくましく -

1 特色ある学校づくり概要

○「トコロん学力向上プロジェクト」特別指定研究校の2年目として、授業改善を行い、非認知能力の向上を目指して研究を進める。

今年度より始まる学校運営協議会により、地域の教育力(人材・施設)を活用する。生活科・総合的な学習の時間を中心として教育活動を推進し、児童の「主体的・対話的で深い学び」を促進する。

スペシャルサポートルームの運営を進め、一人一人の児童のニーズに応じた教育を推進する。



「上山口地域ふるさと創生を進める会」より5年生稲刈りの授業

2 具体的な活動の紹介

月1回、東京学芸大学 名誉教授 平野先生より指導力向上のための授業参観及び指導をいただいた。全教職員が自身の授業を振り返り、「はじめに子どもありき」の教育理念のもと授業改善を行った。各種学力調査、AiGROWの活用により児童の非認知能力の分析を行い、校内研修を進めた。11月26日(水)には「トコロん学力向上プロジェクト」特別研究指定校として研究発表を行った。その際、全国学力・学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査の児童質問紙調査にて高い成果を示すことができた。

学校運営協議会では、学校ボランティアを募集した。地域の方々から多くの協力をいただき学校敷地内の樹木の剪定や除草作業を行っている。また、山小農園では、2年生のさつまいもをはじめ、特別支援学級の野菜作りなどにも協力いただいた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

【成果】

- ・全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の児童質問紙項目(第6学年非認知能力に関する項目)において非認知能力の向上が見られた。

【地域の声】

- ・母校である山口小学校の活動にかかわれるのはうれしい。子どもと関わることができて元気をもらえている。これからも続けたい。

地域の香りを大切にし、地域とともにある

特色ある学校づくり

～豊かな人間関係を育み、子供一人一人の瞳が輝く学校～

1 特色ある学校づくり概要

(1) 人や自然との関わりを大切にし、心の触れ合う教育活動

学校ファームを活用した体験学習

花壇を活用した栽培活動・グリーンカーテン

異年齢集団活動

地域へ出かける自然体験活動

地域活動への参加

(2) 地域と共に進める教育・学校づくり

学校支援ボランティアの充実

学校行事へのサポーター活動

昔遊び体験



「北校舎から中庭にかけての
グリーンカーテン」

2 具体的な活動の紹介

(1) 人や自然との関わりを大切にし、心の触れ合う教育活動について

- ・ 5年生が学校ファームの田んぼを活用して、種から稲を育て、収穫まで行う一連の体験活動
- ・ グリーンカーテンによる緑化、飼育小屋の小動物（うさぎ）との触れ合い
- ・ 花壇を活用して、ヘチマ（4年）・大根（2年）・さつまいも（2年）の栽培活動
- ・ 異年齢集団（学年縦割り班）の行事や遊び（仲よしタイム）
- ・ 3年生があらはたの森に出かけ、自然の移り変わりや豊かさを学習
- ・ 保存会の協力のもと、3年生のささら獅子舞体験（太鼓・笛・獅子舞）
- ・ 和太鼓クラブによる自治会の夏祭りへの参加

(2) 地域と共に進める教育・学校づくりについて

- ・ 学校支援ボランティアによる読み聞かせ、図書室整備
- ・ 運動会や音楽会のサポーターとしての活動
- ・ 地区民生委員・児童委員の協力による昔遊び体験（1年）

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・ みんなでさつまいもを栽培して焼き芋にしたことが、とても楽しかった。（児童の声）
- ・ サポーターやボランティアに参加することで子どもの様子が見られるのでありがたい。（保護者の声）

「おはよう」から「さようなら」まで

安心して学べる元気な学校

一人一人の「今」を「未来」を大切にす教育の推進

- 【Chance】みんなの今が大切にされ、明日への希望に繋がる教育
- 【Challenge】挑戦し続ける力、共に協力し乗り越えていく力を育てる教育
- 【Change】一人一人が確かな伸びを実感でき、なりたい自分に一步近づく教育
- 【Connect】ゆるやかなつながりを大切にしよう

1 特色ある学校づくり概要

本校の、学校教育目標である「おはようからさようならまで、安心して学べる元気な学校」を実現するべく、Chance, Challenge, Change, Connect の4つのCを中心に教育活動を進めてきた。

今年度は、「トころん学力向上プロジェクト」に基づき、全教員が授業の基礎基本に立ち返り研究を進めた。その上で、教科の見方・考え方や対話、ICTの効果的活用を取り入れた授業改善を実践した。また、3年目の学校運営協議会を軸に、学校・家庭・地域が一体となり「子供を真ん中に置いた地域づくり」を推進した。これらの取組を通じ、登校から下校まで児童が安心して学び、元気に活動できる学校像の実現に向けた成果を得ることができた。



「1年生研究授業の様子」

2 具体的な活動の紹介

令和7年度の学校運営協議会「TSN みらい会議」は、3年目の活動として、地域と学校が連携した教育環境づくりを推進している。具体的な活動としては、まず学校教育目標「明るい子、がんばる子、優しい子、のぞみつづける子」の達成に向け、愛校会を通じた支援を継続する。昨年度の協力金は大型扇風機の購入等に充てたが、今年度は次年度に迎える開校45周年に向けた取り組みが検討された。

また、学力調査結果に基づき、「学習の楽しさ」を伝える個別支援の強化や、西武ライオンズとの連携授業、水鉄砲大会、つば小フェスティバルといった地域連携による体験学習について委員からの意見をもとに教育活動を展開している。これらの活動を通じ、地域全体で子供たちの成長を支えている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

昨年度より継続している校内研修の成果としては、児童の学力向上や児童の学習意欲向上が見られた。また、PTA や学校運営協議会との連携による、環境整備や地域連携の体験学習を通じ、児童の体験活動が充実した。児童からは「授業が楽しく学校がワクワクする」、保護者からは「見守りの目があり安心」、との声が届いていた。これらは、安心と活気ある学校づくりの確かな成果と言える。

家庭・地域の教育力を生かし、子供たち一人一人のよさを伸ばす学校づくり

1 特色ある学校づくり概要

本校は明治6年に宝玉院を仮校舎として開校した歴史ある学校である。親や祖父母が本校の卒業生という家庭も多く、地域の方が本校の教育活動にも大変協力的である。「みんなやさしく かがやいて じょうぶな体 まじめな子」という学校教育目標のもと、一人一人の子供たちを大切にした教育を推進するためにも、家庭や地域とのつながりの深さを活かしながら、子供たち一人一人のよさを伸ばす学校づくりを進めている。



「糎谷八幡湿地での田植えの様子」

2 具体的な活動の紹介

家庭や地域とのつながりの深さを活かした取り組みとしては、「糎谷八幡湿地」における体験活動がある。本校学区内にある「糎谷八幡湿地」は、所沢市内に残る数少ない田園である。地域の方が多く集まって田植えや稲刈りの作業を協力して行うという体験を行うことで、地域の自然の恵みやありがたさ、収穫の喜びを実感することができ、貴重な体験となった。11月9日(日)には収穫したお米を使用した「餅つき」を行い、令和8年1月24日(土)には糎谷八幡湿地での「落ち葉はき」も実施した。親子で参加する家庭もあり地域の方、家庭とのつながりの深さが感じられた。

また、学校の敷地内にある「むくろじ農園」では、ボランティアの「むくろじ農園協力隊」の方々の支援を受けて、児童が多くの作物を栽培、収穫をしている。1年生「さつまいも」と「じゃがいも」の植え付け2年生「大根」と「じゃがいも」の収穫、3年生「里芋」、4年生「麦まき」、5年生は4年生の時に蒔いた「麦」を刈り取りストローづくりを行い栽培、収穫の苦労や喜びを体験することができた。収穫した物の一部は、給食で使用して収穫の喜びを学校全体で共有した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

地域の方のご理解とご協力を得て、三ヶ島の恵まれた自然の中で子供たちが体験活動をする事ができた。また、地域の方からは、子供たちと関わることを喜ぶ声や一緒に活動することで活力を貰えるとの声も多く学校に寄せられた。子供たちも体験を通して学習を深めることができ、自ら積極的に学習する児童の姿が多くみられた。今後も保護者、地域と連携を深め教育活動を行っていきたい。

「一人一人が主人公」

豊かな心とやる気・自信を育む 若狭小学校

1 特色ある学校づくり概要

子供たちにとって居心地がよく、誰もが認められていると感じられる「子供たちによりよく生きる力を育む」ことを教育活動の中心とし、心身のたくましさ、未来を拓く知恵、ふるさと所沢を愛する心の三つの宝を掘り起こし、すべての子供が未来へはばたく力を育てるという自覚と誇りをもって、子供に未来を生きる力を育む学校づくりを目指してきた。全ての教育活動の中で、一人一人を大切にし、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけさせるよう、特色ある学校づくりを推進した。

未来を生きる力を育む授業づくり

・授業で実践 学力向上、体力向上、生徒指導、児童理解

一人一人を大切にする教育環境づくり

・「どうしたの」からはじまる、自己指導能力を育む生徒指導の推進

たくましい子供を育てる、安心・安全な学校づくり

・「いじめ防止基本方針」の理解と方針に沿った実践 ・教師がお手本、明るいあいさつ、届く声かけ
人とのつながりを大切にする学校づくり

・目指す児童像の共有と連携 ・地域の力を最大限活用した教育活動の充実

2 具体的な活動の紹介

家庭・地域と一体となって子供を育てる学校行事の環境整備
多くの保護者や地域と共に安全に、意欲的に合同環境整備を行い、校庭及び体育館を使用しやすくした。そのおかげで、子供たちが、安全に運動等を行えるようになった。

たくましい子供を育てる、安心・安全な学校づくり

各教室に更衣室用カーテンを設置し、児童が安心して着替えられる環境整備を行った。



「合同環境整備の様子」



「更衣室の様子」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

校庭の水はけがよくなり、すぐに校庭が使用できるようになってありがたかった。

四方がカーテンで囲まれた更衣室が各教室に整い、子供たちが安心して着替えられる環境ができた。

子供の命、子供の人権、子供の夢 (可能性やチャンス)を守る。

～子供たちが将来、自分の夢を実現できるように、力をはぐくむ～

「学力」をつけることのできる教職員の育成
子供の居場所づくりサマースクールの実施
教職員への信頼確保

指導力の向上
学年・学級経営の充実
保護者、地域との連携

安心・安全な環境

1 特色ある学校づくり概要

はじめに、本校の喫緊の課題である「学力向上」については、教員の指導力向上のための研修や、環境整備を行うことで取り組むことができた。また、開校50周年事業や、三ヶ島中学校区コミュニティスクールなどでは、地域や保護者との連携で事業を進めることができた。コミュニティスクールでは、三ヶ島中学校を会場に「こどもの文化の祭典」を開催することができた。

今年度は、子供の居場所づくりのためのサマースクールが実施できた。今年度の課題も含めて、来年度はさらなる内容の充実を図っていきたい。



「開校50周年バルーンリリース」

2 具体的な活動の紹介

児童が安心安全、かつ、楽しく学習することができるよう教育課程の見直しを行い、行事も行ってきた。夏休みに実施したサマースクールでは、市教育委員会指導主事、AET、校長、所沢商業高校書道部など、多くのゲストティーチャーにもご協力を頂き、実施することができた。5日間実施し、英語、算数、図書、習字の講座に203名の児童が参加した。



「サマースクールの様子」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

児童は運動会、音楽発表会、学校まつりを通して、「うまくできることができた。」「来年は6年生のようなことをしてみたい。」と達成感を得られた。また、保護者からは「行事を実施していただき、ありがたい。」とあった。今後も児童が夢を持つことができるような教育活動を進めていきたい。

元気いっぱい 花いっぱい 笑顔あふれる みんなの宮前小学校

1 特色ある学校づくり概要

【みんなの宮前小学校】の実現のために、宣言文の三つの視点【元気いっぱい、花いっぱい、笑顔あふれる】で、特色ある学校づくりを推進してきた。

(1) 視点1【元気いっぱい】

- ①安心して活動できるようにする
- ②活力ある学習活動ができるようにする（トライ&チャレンジ）

(2) 視点2【花いっぱい】

- ①体験活動を通じて心を育てる
- ②地域と連携して安全で美しい教育環境を整備する

(3) 視点3【笑顔あふれる】

- ①子供たち一人一人のよさを伸ばす
- ②支え合う集団をつくる
- ③夢やあこがれに向けて努力できる



「黄組の団旗とプラカード」



「きれいに整備された花壇」

2 具体的な活動の紹介

(1) 児童会活動の充実

コロナウィルス感染症の5類への移行により、2年前より児童会活動を活発に取り組み始めた。今年全学年が3学級編制になったことを機に、さらに児童会活動を活発化することをねらい、縦割り活動を赤組、青組の2組編制から赤組、青組、黄組の3組編制に移行した。それに伴い、新規の黄組の団旗、プラカード等を作製し、カラー旗は3組とも新調した。

(2) ボランティアとの連携

本校では、花や環境整備を行う道具、花等を購入している。それを活用し、ほぼ毎週、ボランティアさんにご尽力いただき花壇の整備が行われ、花がいつもいっぱいの宮前小学校が実現されている。

(3) 教室環境の整備

学級数が2つ増えたため、それに伴う教室整備に必要なものを補充し、子供の活動を支えた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「元気いっぱい」で「笑顔あふれる」姿を多く見せてくれた。1年を通して、花壇から花が消えることない「花いっぱい」の学校であった。今後も地域との連携を図りながら、やさしい子供たちのあふれる「みんなの宮前小学校」を実現していく。

さわやかな挨拶 心に響く合唱 地域に根ざす学校

1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標「自立・共生・貢献」、教育理念「はじめに子どもありき」のもと、「能動的な学習者としての子ども観」に立った授業を日々実践している。特に、所中三本柱「挨拶・合唱・ボランティア活動」を大切に、生徒の良さや可能性を伸ばす教育活動を推進している。また、学校・家庭・地域が一体となり、各小学校と連携を図りながら（「所澤学校」）子供の主体的な学びを実現している。今後も、特色ある学校づくりを通して、家庭・地域に誇れる学校を目指していく。



「地域清掃ボランティアを通じた地域交流」

2 具体的な活動の紹介

- (1) **さわやかな挨拶**・・・生活委員会が主体となり、「あいさつ運動キャンペーン」を実施した。活気に溢れ、気持ちのよい挨拶が増えてきた。また、「地域ぐるみのあいさつ運動」を設定し、所沢小学校・明峰小学校に出向いてあいさつ運動を実施した。生徒たちにとっては、卒業した母校で中学生としての姿を見せることができ、意欲的に参加することができた。活動を通して、進んであいさつする意識の醸成を図ることができた。
- (2) **心に響く合唱**・・・特色ある学校づくり支援事業の予算を賃借費として充て、所沢市民文化センターミュージズにおいて合唱コンクールを開催した。実行委員やパートリーダーを中心に、生徒が主体となって練習を重ね、当日はミュージズのステージ上で堂々と発表することができた。参観した保護者からも大きな賞賛の拍手が送られ、生徒の自己肯定感の醸成につながった。
- (3) **地域に根ざす学校**

地域の教育力の活用・・・進路学習会や特別支援学級職業講演会では、近隣の高等学校や所沢市に関わりのある企業から講師を招聘し、講演会を行った。また、地域における職場体験（67事業所）も実施することができた。

学校から地域へ・・・総合的な学習の時間では、「ふるさと所沢」をテーマに、各学級で探究活動を実施した。生徒自ら地域に出向き、取材等を行って情報収集することで、学びを深めることができた。地域ボランティア活動（地域清掃、ところざわまつり、各町内会の行事等）にも、積極的に参加することができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校評価において、以下の成果が確認できた。（肯定的評価の割合）

保護者アンケート結果	
「さわやかな挨拶」ができていますか・・・・・・・・・・	89.0%
「心に響く合唱」ができていますか・・・・・・・・・・	96.4%
「地域に根ざす学校」ができていますか・・・・・・・・・・	95.3%

そこにいる皆を主役に 「誰もが安心して過ごせる学校」を創ります

1 特色ある学校づくり概要

本校における特色ある学校づくりは、学校教育目標を具現化するための方策として、学校の主役である生徒を中心に捉え、保護者や地域との連携を密にしながら、様々な教育活動をとおして、推進した。



ひまわり交流会（苗植え後生徒とPTA）

2 具体的な活動の紹介

（1）教職員が自分事としてとらえ、主体的に取り組む校内研修の実施

今年度の研修テーマを、「居心地のいい学校 安心安全な居場所のある学校 ~『対話』を広げよう~」とした。教職員一人一人が主体的に学校課題をとらえ、「居心地のいい学校」づくりに向け、『対話』をキーワードに、それぞれの教育活動において、意識化しながら取り組んできた。「個人と組織の可能性を引き出す対話と共創造」を方針とする合同会社から指導者を招聘し、研修を深めた。教科指導に限らず、校務全般において「対話」をキーワードに、そもそも「対話とは何か」「対話を通した居心地」に向けて自分事としてできることが何かを考え、実践をもとに学校力の向上に向けて尽力した。

（2）美しく、安全、安心な学校環境づくり

保護者、保護者OBで組織している「ひまわりの種の会」をはじめ、学校環境の整備活動にお手伝いをいただいている。今年度は、生徒がゼロから企画した生徒会行事「ひまわり交流会」も実施され、PTA本部・保護者とともに、「交流」を目的に花の苗植えを行った。花を介して、自然に「対話」が生まれ、生徒はもちろん、保護者や教員も含め参加者全員の笑顔がたくさん見られる素晴らしい会となった。今後も継続して実施していきたい。また、学校運営協議会も2年目となり、今年度は「防災と地域」をキーワードに、学校朝会での協議会委員長さんによる講演も行いながら、防災と絡めた地域とのつながりという視点で、生徒の考えを基にした熟議を深めることができた。

（3）学校行事の工夫

今年度も所沢市民文化センターミュージズの大ホールで合唱コンクールを実施した。本校の合唱は伝統があり、さらに今年度は、コーラス部全国大会金賞の快挙も含め、生徒だけでなく学校に関わる人たちの期待は大きい。学校行事として、生徒の活躍や成長が分かるように活動を工夫している。美術部生徒による学校フェンスへの制作物の掲示、近隣の神社への巨大絵馬の奉納等、歌声だけでなく、潤いのある学校行事づくりを推進している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度も、学校行事において、生徒の考えをあらゆる場面で「引き出し」、その考えを取り入れながら、生徒の達成感につながるよう実施してきた。その中で、生徒の取り組みや活動の成果は、普段の学校生活の中で、日頃の生徒の姿の変容となって表れていると感じる。今後も「居心地のいい学校」に向けた「対話」を軸に、生徒が主役になる学校づくりを全教職員で推進していく。

所沢市立美原中学校

- 『 はじめに子どもありき 』の理念のもと、
- 『 未来を切り拓く生徒の育成 』を目指し、
- 『 本気の笑顔を経験できる美原中学校 』を推進します

1 特色ある学校づくり概要

美原祭（合唱祭）・体育祭などの学校行事、校外学習・林間学校・修学旅行などの学年行事や、総合的な学習の時間での福祉教育、日々の教育活動を通じて生徒主体の取組を充実させ『 本気の笑顔を経験できる美原中学校 』の実現に迫った。また、「はじめに子どもありき」の理念を基に、『関わるべきところと任せるところ』、『待つ』を意識した授業づくりの研究に積極的に取り組んだ。「子ども



美原祭【1学年・学年合唱】

もとは、本来よくなりたい、できるようになりたいと願っている存在」と捉える子ども観について教職員で共通理解を図り、日々の授業や活動を通して「未来を切り拓く生徒の育成」の具現化を図った。

2 具体的な活動の紹介

『 子ども主体の教育 はじめに子どもありき 』をテーマに講師を招聘。教職員向けの研究授業・講演会を実施し、授業改善、教師の指導力の向上に向け取り組んだ。また、「子どもの学び案」のひな型を作成し、「子ども主体の教育」の具現化を図った。

『 学校だより・学校HP 』で、特色ある学校づくりの活動・成果等を伝えた。特にブログの更新をほぼ毎日行い、本校の教育活動の紹介や基本的な姿勢の発信を行った。

美原祭・体育祭等を保護者に公開し、生徒の活動の様子を見ていただく機会を多く作った。

福祉教育では点字、車いす、手話体験を、保育学習では所沢市役所と連携し赤ちゃんとのふれあい体験を行った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校評価では、9割近い生徒が「主体的な学習態度が身についている」、「楽しく学校生活を送っている」、「学校行事を通して成長することができた」と回答した。また、保護者の方々からは、『本気の笑顔を経験できる美原中学校』を具現化する取組が行われている」(約7割)「学校行事を通じて生徒は成長している」(約8割)など、評価いただいた。地域の方々には、様々な機会を通じて学校に足をお運びいただき、美原中生徒の本気の笑顔を見ていただくことができた。地域にも配布している学校だよりは大変好評で、学校経営理念・方針に多くの共感の声をいただくことができた。さらに学校ブログは「生徒や学校の様子がよくわかる」と保護者に大変好評で、学校の教育活動への理解に繋がった。

生徒会憲章を実現し 「未来を切り拓く生徒の育成」を目指します

1 特色ある学校づくり概要

「中央中学校の生徒は自分たちの理想とする学校づくりを目指す目標として、生徒会憲章を定める。」この生徒会憲章実現に向けて、生徒の主体的取組を支援し、自らに誇りを持たせ自己肯定感の醸成を図る。併せて、以下の「7つの凡事徹底」を推進し、しっかりとした生活習慣を身に着けさせる。

- ①あいさつ ②返事 ③時間を守る ④清掃をしっかり行う
⑤正しい言葉遣い ⑥正しい身だしなみ ⑦いたわりの対応



「合唱コンクール」

2 具体的な活動の紹介

(1) 生徒ボランティアによる落ち葉掃き・学校菜園の整備活動

生徒会の企画で生徒有志を募集し、落ち葉掃きの活動を行った。また、ソフトボール部の生徒たちが、雨の日も継続して自主的に落ち葉掃きを行った。学校の前を通行する地域の方々からも励ましの言葉をいただき、生徒たちの自己肯定感もさらに高まっている。

生徒たちが学校菜園の整備に自主的に取り組んだ。参加した生徒たちは、自分たちが苦勞して育てた野菜等を収穫することで、食物のありがたみや自然の雄大さなど、食育・環境教育について学ぶよい活動となった。特色ある学校づくり支援事業の予算から、整備費として充てさせていただいた。

(2) 除草作業・3年生による校内環境整備

学校行事や生徒が主体となる様々な活動について、その活動の意義・目的を意識しながら実施してきた。体育祭の前に、体育委員や各部活動が除草作業を実施し、生徒会憲章の中にある、自分たちの学校の学習環境を自分たちで改善し、よりよい学校にしていく活動ができた。また、卒業を控えた3年生が、これまで使ってきた自分たちの校舎を清掃・整備する活動も行った。当日の運営をはじめ、呼びかけや片付け等は生徒たちが行った。きれいで美しい学校環境を維持する有意義な活動となった。

(3) 合唱コンクール

特色ある学校づくり支援事業の予算を賃借費として充て、所沢市民文化センターミュージズにおいて合唱コンクールを行った。実行委員やパートリーダーを中心に、生徒が主体となって練習を重ね、当日はミュージズのステージ上で堂々と発表することができた。参観した保護者からも大きな賞賛の拍手が送られていた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校評価において以下の成果が確認できた。（肯定的評価の割合）

生徒		保護者	
自分には、よいところがあると思う	88.0%	生徒が学校へ行くのが楽しいと言っている	84.4%
身の回りや教室・廊下の美化に努めている	72.4%	校舎はきれいで、教育環境が整っている	98.1%
行事に協力し、集団への所属感を深めることができた	93.8%	学校行事が充実しており、生き生きと活動している	91.2%

本校は、「人と人が交わり、笑顔と活力にあふれ、

温もりと居場所がある学校」を目指します。

1 特色ある学校づくり概要

「はじめに子どもありき」の基本理念のもと、「生徒たちの現在地を知ることからはじめる」ことを大切に、安全・安心な学校づくりを進めている。

地域との連携については、今年度より始まった学校運営協議会を中心に、地域の核となる学校づくりを進めている。小学校との連携については、中学校区内で定期的に連絡会を開催し、連携を図っている。また、学校公開では小学校高学年の児童とその保護者を招いたり、体験授業を実施したりするなど、いわゆる「中1ギャップ」解消への一助としている。

本校では、特色ある学校づくりの視点として、特に以下4点について取り組んだ。

生徒にとって...「生き生きと学び、安心して通える学校」

教職員にとって...「互いの持ち味を大切に、協働と感謝のある学校」

保護者にとって...「子供の成長が見え、信頼できる学校」

地域にとって...「明るく開かれ、応援したくなる学校」

2 具体的な活動の紹介

- (1) 合唱コンクール... 10月にミューズを会場に開催した。800名を超える保護者や来賓が参観する中、実行委員を中心に運営され、「今こそ咲かせる～音楽は伝説を変える～」のスローガンにふさわしい会となった。
- (2) 体育祭... 5月に平日開催した。500を超える家庭が参観した。体育委員会をはじめとする生徒が準備や運営に力を発揮した。
- (3) 校外学習(1年:川越、2年:東京、3年:京都・奈良)... 3年生の修学旅行では、事前計画のもと、グループ行動に自主的に取り組み、有意義な学びとなった。
- (4) 部活動、地域ボランティア等... PTAや愛校会の温かい支援を受け、多くの部が大会で活躍した。特に、陸上部、水泳では全国大会に出場した。また、地区のお祭りや地区の文化祭で多くの生徒が参加し、地域とのつながりを深めた。
- (5) 学校ホームページ... 学校の教育活動を保護者や地域へ迅速且つ積極的に発信し、地域や家庭との連携及び啓発を促進している。



「合唱コンクール」



「吾妻地区文化祭」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・保護者の声...合唱コンクールや体育祭では、生徒が熱心に取り組んでいる様子を見て感動した。
- ・地域の声...地域の夏祭り等の行事では、生徒が積極的にボランティアに参加してくれ、小学生のよい手本となっており、地域の活性化につながっている。

地域と共に育つ学校づくり

自信と誇りを持ち、未来にはばたく東中(がっちゅう)生徒

1 特色ある学校づくり概要

本校では、「清新で魅力ある東中学校づくり」を経営理念に据え、「自分を信じ、学び続け、生き方を探し続ける生徒」

自ら学び、互いに高め合える生徒(知) 自己を見つめ、思いやる心を持ち、協力できる生徒(徳) 心身ともに健康で、進んで実行できる生徒(体)を目指す生徒像としている。

教育目標は「自立と貢献」であり、これを学校・家庭・地域で共有して、目指す生徒像の実現を目指している。協力的な地域の方々の厚意により、多くの教育活動が支えられ、協働

体制も築けている。特色ある学校づくりを通して、「自信と誇りを持ち、未来にはばたく東中生徒」を目指し、地域と共に育つ学校づくりを推進した。



「合唱コンクール」

2 具体的な活動の紹介

東中フェスティバルや体育祭などの学校行事では、後援会・PTAと協力して教育活動を推進した。

合唱コンクールでは、所沢市民文化センターミュージズの大ホールを利用して、生徒がいきいきと活躍できる場を提供して感動ある体験を実施し、『自信と誇り』を持たせることに繋がった。

東川清掃・校内除草作業等のボランティア活動を生徒会主催で企画・運営し、後援会・PTAと連携して実施したことにより、生徒の道徳心や奉仕の心を培った。

特別支援学級において、相互理解を深める交流及び共同学習を推進した。

落ち着いた学校生活を作り出すため、毎週月水金に全校一斉の朝読書を推進し、実施した。

TGS構想に元つき端末の積極的な利活用を目指しタイピング練習時間を設定、全校一斉に実施した。

基礎学力の定着を図るため、年3回の国数英の東中検定(基礎学力テスト)を実施した。

QUテストを全校で年2回実施し、教員が生徒の状態を多角的に把握することに努めた。

トコロん学力向上プロジェクトの特別指定研究校(2年目)として、「非認知能力の育成」に視点を置き、客観的根拠(AiGrowを実施)を参考としながら研究を進めた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度も地域と共に育つ学校づくりを推進することができた。「学校だより」や「学校ホームページ」を通して教育活動の様子を発信することで保護者、地域との連携をさらに進めた。また、学校公開日や学校行事には、毎回、多数の保護者や地域の方々の来校があった。今後も、生徒や教職員が地域と共に活動を行うことで、生徒にボランティアなど活躍の場、学校と地域との交流の機会を増やしていきたい。

地域の香りを大切にし

地域とともにある特色ある学校づくり

1 特色ある学校づくり概要

本校では『地域の香りを大切にし、地域とともにある「特色ある学校づくり」』の推進を目指し、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をもった生徒を育成するために、「所属感」「存在感」「一体感」「達成感」を味わわせ、潤いと笑顔と歌声があふれる安松中を目指して教育活動を進めている。本年度の重点として、「教師は授業で勝負」「学年・学級経営を充実させ、心豊かな生徒を育成」「整った環境整備」「生徒指導・教育相談の充実」「家庭・地域・学校、関係機関との連携」とし、総合的な学力とともに、心豊かな、思いやりのある生徒の育成を目指している。



「合唱コンクールの様子」

2 具体的な活動の紹介

教師の授業力向上を柱に、生徒一人一人が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを進めてきました。校内研修や研究授業、日常的な授業参観を通して教員同士が学び合い、ICTの活用や対話的な学習を取り入れた授業改善を継続しています。また、体育祭や合唱祭などの学校行事では、生徒が学級や学年の仲間と協力しながら目標に向かって取り組む活動を重視し、役割を果たす中で所属感や一体感、達成感を味わえるよう工夫しました。これらの取組を通して、学ぶ意欲と豊かな心を併せ持つ生徒の育成につながっています。



「授業の様子」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

教師の授業力向上と学校行事の充実を柱とした取組により、生徒は授業への意欲が高まり、自分の考えを表現する姿が多く見られるようになった。体育祭や合唱祭では、仲間と協力して目標を達成する経験を通して、学級のまとまりや思いやりの心が育まれている。生徒からは「学校が楽しい」「頑張ったことを認めてもらえる」との声が聞かれ、保護者からも「子供が前向きに通学している」「安心して任せられる」との評価をいただいている。地域の方々からも「元気なあいさつや活動の様子に学校の成長を感じる」との温かい声が寄せられ、地域とともに歩む学校づくりが着実に進んでいる。

「地域に根ざし 地域とともに歩む

安全安心な学校づくり」の推進

1 特色ある学校づくり概要

「地域に根ざし 地域とともに歩む 安全安心な学校づくり」を推進した。そのために、

- ア 学力向上のための指導の充実
- イ 生徒・保護者・地域社会への情報発信と情報収集
- ウ 柳中農園の活用
- エ 地域と連携した学校行事の充実
- オ 安全・安心な学校づくりのための点検・防犯活動並びに指導の充実



10月31日(金)所沢ミューズ大ホールで合唱コンクールを行いました。どのクラスも日頃の練習の成果を十分に発揮することができました。

2 具体的な活動の紹介

- ア 学力向上のための指導の充実
埼玉県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査、所沢市ステップアップ調査の結果を活用し、指導法を研究した。「伝える力の育成」をテーマにした学校研究に取り組み、講師を招聘してのアサーショントレーニングや、全教師が研究授業を実施し、指導力の向上を図った。
- イ 生徒・保護者・地域社会への情報発信と情報収集
生徒・保護者・地域に本校の教育のねらいとその現状を広く周知するため、学校だより・各種たより等を配布した。また、学校行事やPTA活動について、学校ホームページやtetoruを通じて周知した。
- ウ 柳中農園の活用
約1000㎡の農園の活用を図り、総合的な学習の時間に1学年が1学期にはジャガイモの栽培、収穫、販売、3学年は2、3学期に大根の栽培、収穫を行った。特別支援学級では、年間を通じて、ジャガイモや大根の栽培を行い、収穫後に販売学習を行った。
- エ 地域と連携した学校行事の充実
体育祭・合唱コンクール等の学校行事を、全校生徒および保護者で実施することができた。また、地域の事業所と連携し、2年生の職場体験学習を実施した。
- オ 安全・安心な学校づくり
学校の施設設備に関する安全点検活動は、年1回の総点検と定例点検、必要に応じて臨時点検を行い、教育環境の安全確保、充実を図った。学校運営協議会を通して、家庭・地域とのより一層の連携、協働を図った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

(1)成果

学力調査、ステップアップ調査の得点率が向上し、着実に学力が伸びてきた。体育祭や合唱コンクールを盛大に開催できた。農園の活用、職場体験、学校運営協議会との連携等により、家庭・地域との協働がさらに進み、学校、家庭、地域が一体となって生徒を育てることができた。

(2)子供・保護者・地域の声

大ホールで歌える、聴けるといのは、子供たちにとって特別な体験であった。子供たちの声や、ピアノの反響がよく聴けた。子供1人1人の顔も見やすく、素晴らしい環境での合唱コンクールに、感動した。

地域とともに歩み、自信と誇りある学校

「ふるさと とみおか」

学校は、家庭・地域のパートナー

「協働・共同」による連携を推進し地域とともにある学校を目指し

豊かな感性と社会性を持つ生徒の育成

共に学び考える生徒の育成

活力あるたくましい生徒の育成

1 特色ある学校づくり概要

松の木祭（合唱コンクール）を行った。各クラスの実行委員が曲選びから練習計画等を考え、生徒主体で動かすことができた。

制限なく多くの保護者の方に参観していただいた。参観した3年生の保護者の中には歌声を聞いて感動したと声をかけてくれる姿も見られた。招待された地域の方も、中学生の力に感動していた。



「第53回 松の木祭」

2 具体的な活動の紹介

- ・校内研修を中心に授業改善に向けて取り組んだ。生徒理解のための特別支援教育の視点を持った授業展開、ウエルビーイングの研修を行い、生徒に寄り添った時間の探究を行うことができた。
- ・富岡地区安全・安心な学校と地域づくり会議を開き、地域の方と学校で協力して児童生徒を健全に育てていく関係づくりができた。
- ・総合的な学習の時間で1年生は「福祉」に重点をあて、市の社会福祉協議会と連携し、体験を通して学びを深めることができた。また、県立所沢特別支援学校との交流授業を行い、みんな違ってみんないいというお互いを認め合う心の育成を育むことができた。2年生は事業所の協力を得て3日間の職業体験をし、働くことの意義を学ぶことができた。
- ・体育祭や松の木祭で自分の役割を責任持って行うことの大切さや、仲間とともに歌声を合わせて音楽を表現する喜びを味わうことができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・プールシートや昇降口マット、テントを新しくし、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境整備ができた。また、生徒の心を潤すために花壇の整備をした。地域の方からも「学校が明るく見える」という言葉をいただいた。

主体的にたくましく生きる生徒活動

— 地域と共に、きれいな学校・元気な学校づくり —

1 特色ある学校づくり概要

本校は「主体的にたくましく生きる生徒」を学校教育目標とし、その達成のために、生徒一人一人が活躍できる場や行事を設定し、個性の伸長を図るとともに奉仕の精神や地域の一員としての意識の育成に力を入れている。3大行事（体育祭、合唱祭、三送会）を生かして知徳体のバランスのとれた生徒を育成し、粘り強く最後まで頑張る「小手中魂」の伝統を継承し地域と共にきれいな学校・元気な学校づくりを目指している。今年度の重点目標として令和の日本型教育の実現に向け、学習指導と生徒指導を柱として研修を行い、生徒に学ぶ喜びやわかる楽しさを味わわせながら、確かな学力を身につけさせたり、不登校生徒の減少を図ったりする取組を行った。



「体育祭の選手宣誓の様子」

2 具体的な活動の紹介

(1) 「生徒一人一人を大切にする授業の創造」

所沢市の「学力向上研修 ICT を活用した授業づくり研修会」の委嘱を受け、外部講師を招聘した研修を行うことにより授業改善を行った。講師に東京科学大学名誉教授赤堀先生を招聘し、毎月一人ずつの教員の授業を見てもらい、ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの授業実践を推進した。

(2) 「主体的にたくましく生きる」を目指した学校行事

- ① 1年校外学習（川越）、2年校外学習（東京）、3年修学旅行（京都・奈良）、8組合同遠足（稲荷山公園）に出かけ、計画、実施、反省を行い、それぞれ次につながる行事となった。
- ② 体育祭：暑さ対策や合唱祭開催日の兼ね合いから、今年度は時期を合唱祭後の10月下旬にずらし行った。平日の開催となったが多くの保護者の参観があり、暑さ対策にも配慮した体育祭となった。
- ③ 合唱祭：今年度も全クラスそろってのミューズでの合唱祭ができた。インフルエンザなどの流行で出場が心配されたクラスもあったが、より良い環境で行えることをモチベーションとし、どのクラスも日ごろの練習の成果を発揮し、立派な発表をすることができた。

(3) 不登校生徒の減少

「いじめ未然防止プログラム研究校」として委嘱をうけ、NiCoLi やいじめ D アンケート、学校風土調査など客観的なデータを活用し、面談を行い不登校生徒の未然防止、減少を図った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

本年度行った学校評価・保護者アンケートでは、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせた評価が、「生徒は、体育祭・合唱祭に熱心に取り組んでいた」が93%

「生徒は、校外学習や様々な学校行事を経験して少しずつ成長してきている」が96%

「学校は、いじめやトラブルへ適切に対応し、居心地の良い学級づくりに努めている。」が87%

等の評価をいただいた。学校生活において生徒は達成感や充実感を味わい、着実に成長し、保護者からも高い評価を得ている。

(学校評価保護者コメント)

合唱祭では、各クラスの発表が素晴らしかった。練習から楽しくて仕方がない様子でした。

志を持ち、共に高め合う生徒の育成

「地域と共に成長する学校づくり」の推進

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「進んで学び、心身を鍛え、協力して働き、生きる力を伸ばす生徒」という学校教育目標の具現化のため、保護者や地域の方々の協力により、行事や体験活動を行い特色ある教育活動を展開している。地域の教育力をより生かすことを大切に、地場産業のお茶を学ぶ茶道教室や職場体験等の数多くの体験的な学習を実施した。



「茶道体験での様子」

2 具体的な活動の紹介

(1) 体験活動（総合的な学習の時間）

様々な分野の方々を講師に招き、1年生は「地域に学ぶ、働くということ」をテーマに茶道体験・地域学習（産業・文化・自然・人）、2年生は「自然に学ぶ、学ぶということ」をテーマに自然体験学習、上級学校出前授業、進路学習。3年生は「古都に学ぶ・生きるということ」をテーマに世界遺産古都京都奈良を学ぶ、国際協力とSDGs（JICAの方々との交流・点字・視覚障害・認知症サポーター養成講座）進路選択決定の学習を行った。

(2) 社会体験チャレンジ事業（職業インタビュー1年、職場体験・2年）

1年生は「職業インタビュー」として生徒が直接連絡してアポイントを取り、訪問し見学や質問を行った。様々な業種の方と触れ合いながら、業務や職業観について学ぶことができた。2年生の「職場体験」は3事業所にご協力をいただき、貴重な体験を通して職業について学んだ。

(3) 学校ファーム

特別支援学級では、季節に合った野菜を育て収穫し保護者への販売や調理実習を行っている。

(4) 行事（体育祭、合唱コンクール）

体育祭では当日の補助、合唱コンクールの保護者受付等、地域や保護者の支援協力により実施されている。毎年大勢の参観者による温かい声援に生徒たちは励まされ一杯活動している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

成果：開かれた学校から一步踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」を目指し活動を実践することができた。

○保護者の声：体験学習は、知識だけでなく、行動の変容や豊かな人間性の育成のためにも、子供たちにとって貴重な経験になっている。

○地域の声：保護者や関係機関と連携した教育活動が計画・実践され、子供たちの豊かな心が育まれています。また、学校の様子もわかってとても良い。

所沢市立山口中学校

豊かな教育活動を通して、「共に高めあう心豊かな生徒」の育成を推進します。
特に「『誰もが居場所のある』山口中」を推進していきます。

1 特色ある学校づくり概要

本校では、学校教育目標に掲げる「共に高めあう心豊かな生徒」の育成を目指し、様々な教育活動を通して「誰もが居場所のある山口中学校」を実現するため、次の5つの視点で学校づくりを推進した。

- (1) 学力向上の取組：誰もがわかる授業の実践
- (2) 心の育成の取組：心のエネルギープロジェクトの推進
- (3) 地域との連携：地域とのつながりの再構築
- (4) 家庭との連携：生徒・保護者との信頼関係を築くための適切な対応
- (5) 小中連携：中1ギャップの解消に向けた小学校との連携

今年度も、生徒の保護者地域との繋がり大切に、教育活動や学校行事の工夫、ボランティア活動の充実を行い、生徒の様子を発信することができた。学校、家庭、地域が協働し「誰もが居場所のある山口中」の達成に取り組んでいる。



「合唱祭」ミュージズにて
令和7年10月30日実施

2 具体的な活動の紹介

(1) 授業の質の向上と学校行事の充実

本年度、所沢市教育委員会による学校指導訪問が実施された。校内研修を核として、教職員の共通理解を図り、授業の質の向上を図った。生徒による学校評価では、授業の充実度が8割を上回る結果となった。行事については、「生徒が主役」を掲げ、主体的に活躍できる場や計画を実施した。生徒の自主性や責任感が高まる結果となった。

(2) 地域とのつながりの充実

「山口ふれあいウォーキング」、「夏祭り（本年度は、荒幡夏祭りボランティアを追加）」、「荒幡富士清掃（年2回）」、「中氷川こども焼き芋大会」に生徒のボランティアを派遣することができた。地域の方々から生徒の活躍に対してお褒めの言葉をいただくとともに、地域との交流が深まる結果となった。

(3) 生徒の居場所のある学校づくり

思春期の悩みを抱えている生徒は少なくない。悩みやストレス、学業不振等で学校に足が向かない生徒も数名いる。そのような生徒が学校に足を運べるよう、本年度 SSR を立ち上げるようになった。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・山口中の生徒は、楽しそうにボランティアをしてくれる。気持ちのよい子の集まりだ。（地域の方）
- ・2年連続ミュージズで合唱祭ができてよかった。本当のホールの響きはすごかった。（生徒）

『小中連携と地域活動参加により、 自主自律の気風を育てる』

行事等、様々な体験活動を通じて、心豊かな生徒を育む。
地域活動に積極的に参加し、地域との絆大切にする生徒を育む。
環境美化や地域の体験を通して、環境を大切にする生徒を育む。

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「狭山丘陵の雑木林」「トトロの森」「菩提樹のたんぼ」「柳瀬川の源流」など、歴史と文化に恵まれた地域環境を背景に『小中連携・地域活動参加により、自主自律の気風を育てる』という特色ある学校づくり宣言を掲げ、学校教育目標の『自主自律』自ら学ぶ生徒 心豊かな生徒 言動に責任を持つ生徒 健康でたくましい生徒 の育成を目指して教育活動に取り組んでいる。今年度は、校内の環境整備作業と、ボランティア体験活動を年間を通して重点的に行った。

2 具体的な活動の紹介

今年度は、年度当初から暑い日が多く、熱中症の予防策を講じながら6月に環境整備作業、10月に体育祭、11月に合唱コンクールを実施した。保護者や地域にも行事参加を呼び掛け、一緒に活動を行い、生徒の自主的な取り組みを見ていただく機会を作った。

地域活動については、毎月第2日曜日ボランティア活動として柳瀬川の清掃活動、通学路の一部である椿峰地区の緑道清掃活動に、多くの生徒が参加した。また、所沢地区更生保護女性会主催の『子供焼きいも大会』・山口地区体育協会主催の『ふれあいウォーキング』など、地域行事への子供たちの参加をとおして、地域との交流や自立した活動を学ぶ機会となった。



「校地内の環境整備作業を生徒共に実施」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

教室前の樹木を整備したことから教室内に光が入り明るくなった。体育祭では、熱中症予防のために準備したテントは全クラスに1基ずつ設置でき、当日の突然の降雨にも役立った。体育祭においては来賓の方に20名以上来校していただき、『子供達の元気に活動する様子を見ることができ良かった』というお言葉を沢山いただき、子供たちや学校の様子を多くの保護者や地域の方々から知っていただける機会となった。

柳瀬川の清掃活動においては、ボランティア団体の「柳瀬川の最上流をきれいにする会」の方々から、お褒めの言葉をいただいたり、学校ファームの整備にも関わってもらえるようになっている。

子供が主語の学校づくり

— 心理的安全性がある楽しい学校 —

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「子供が主語の学校」を基本理念とし、目指す学校像に心理的安全性がある楽しい学校を掲げ特色ある学校づくりに取り組んできた。具体的には、①「わかった」「できた」を実感できる授業実践による「確かな学力を育成する学校づくり」②組織による未然防止や関係機関との連携による「不登校支援が充実した学校づくり」③様々な行事や学校運営協議会を通して「地域に開かれた学校づくり」の3点を特に重点として教育活動を推進してきた。中でも、「楽しい学校」を意識した学校行事となるよう行事の内容を精選し、体育祭は、生徒と保護者（PTA）が共に競技する新種目を取り入れ、楽しい競技となった。合唱コンクールでは、有志ではあるが生徒と教職員が共に合唱を歌いあげ会場に歌声を響かすことができた。さらに、今年度は三ヶ島中学校区の学校運営協議会の活動の1つとして地域で子供を育てていこうという想いを込めて「子供たちの文化の祭典」と題して本校の体育館を会場に実施し、地域・三ヶ島中学校区の様子等を伝える場の1つとなった。



【合唱コンクールの学年合唱の様子】

2 具体的な活動の紹介

① 「確かな学力を育成する学校づくり」

今年度は、所沢市立教育センター事業である「学校力向上プログラム」に参加し、明星大学小貫悟教授のご指導のもと「子供が学び合う授業を目指して～ユニバーサルデザインで“みんながわかる”をデザインする」を研究テーマとし、学校全体で授業力向上に向け取り組んだ。さらに、学期に2度全教職員が特定の先生の授業を参観し、授業についてリフレクションをする取り組みも行った。授業後には、研修部が中心となり協議を行った。協議では、授業者に対して良いところを伝えることを中心に行うことで授業者のモチベーションの向上につながり、より一層の授業改善につながった。

② 「不登校支援が充実した学校づくり」

不登校生徒の増加や、なかなか学校に足が向かない生徒や相談室に関わる生徒への支援が1つの課題であった。昨年度より、学びの場として校内教育支援センター「はばたきルーム」を開設し、教育相談部を中心とし、生徒に関わる全ての教職員と連携して運営し、着実に継続的な登校へとつながっていった。教育相談部会の中では、情報共有の場ではなく、具体的な支援策を考える場とした。さらに、教育センター指導主事にも可能な限り参加していただき、指導・助言をもらった。今まで学校に足が遠のいていた生徒が登校することや新たな不登校生徒の増加は昨年と比べると減少することにつながった。

③ 「地域に開かれた学校づくり」

今年度から実施された三ヶ島中学校区の学校運営協議会では、大きな行事の取り組みとして、11月16日（日）に「子供たちの文化の祭典」を実施し、地域の学校や所属団体がパフォーマンスを披露した。会場には地域に住む多くの方々が来場し、場を盛り上げている様子が見受けられた。また、本校の生徒が授業や部活動で作上げた作品が体育館後方に飾られ、参観している方々も熱心に見ていた。初めての取り組みではあるが1つの形として踏み出せたと感じている。



【文化の祭典の会場作品】

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

教職員の学校評価では、教育相談に関する「組織的な取組」の項目では61%→89%と昨年より大きく向上した。また、8割の生徒が「学校に行くのが楽しい」と回答している。保護者からも様々な声がある中、「学校生活がとても楽しく、充実している日々を過ごさせています。いつも有難うございます。」と記載があった。この言葉を大事に今後も特色ある学校づくりに取り組んでいく。

『夢と誇りと思いやりを持ち、自ら考え、判断し、 行動する生徒の育成を目指し、地域と共に育つ学校づくり』

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「夢と誇りと思いやりを持ち、自ら考え、判断し、行動する生徒の育成を目指し、地域と共に育つ学校づくり」を推進している。生徒の生きる力をはぐくむために「思考力(考える力)」を土台とし、「自ら学ぶ生徒(学ぶ意欲)、心豊かな生徒(思いやる心)、たくましい生徒(継続する力)」を育成する教育活動を推進します。また、小中連携、家庭、地域との連携を深めながら、地域に根差した教育活動を展開していく。

2 具体的な活動の紹介

教科指導を要に全教育活動を通して「学ぶ意欲」を育成する。

昨年度に引き続き、所沢市民文化センター「ミューズ」にて合唱コンクールを開催することができた。音楽、特別活動を通じて、生徒の意欲を高めることができた。また、合唱コンクール実行委員を中心として練習、準備を行い、生徒の自主性を高めることができた。参観した学校運営協議会委員、保護者の方々にも好評であった。



「合唱コンクールの様子」

道徳の時間を要に全教育活動を通して「思いやる心」を育成する。

昨年に続き、道徳の時間を学校で統一した。担当ローテーションや教材研究を深めることにより、道徳の授業の質を高めることができた。

小学校や地域との連携を深め、地域に根ざした教育を推進する。

本年度は、交通安全については、学校運営協議会でのご意見等を参考に登下校についての安全を図ることができた。本校では交通安産の観点から、宮前小の児童が中学校の校地内を通り、中学生が小学校の校地内を通る交流登校を実施している。小中の連携を深めるだけでなく、「あいさつの輪」の広がりも見られた。体験学習は地域の協力を得て、地域の夏祭り二か所で「太鼓の奏者」、「放送アナウンス」のボランティア活動を通して行うことができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

【道徳の授業について 1年生徒】

個人の意見を聞きながら授業のポイントや考えるべきことにしっかり導いてくれるので 授業の意図を理解しやすく助かっています。

【学校評価(合唱コンクールについて)3年保護者】

合唱コンクールは素晴らしかったです。子供達の中で伝統として自然に受け継がれているのだと思いました。と同時に子供達を陰で見守り、支えてくださっている先生方に感謝しています。

